

令和2年度第2回

新宿区

区政モニターアンケート報告書

- テーマ1 生涯を通じた女性の健康づくりについて
- テーマ2 健康づくりについて
- テーマ3 成年後見制度について
- テーマ4 ユニバーサルデザインについて
- テーマ5 苦情処理機関「区民の声委員会」について



新宿区総合政策部区政情報課広聴係

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
3 集計・分析結果を読む際の注意点	1
4 回答者の属性	2
II 調査の結果	5
テーマ1 生涯を通じた女性の健康づくりについて	5
(1) 「女性の健康支援センター」の認知状況	5
(2) 女性の健康専門相談の認知状況	8
(3) ピンクリボン月間に実施している取組の認知	10
テーマ2 健康づくりについて	11
(1) 1日に必要な野菜の摂取量の認知状況	11
(2) 1日に食べる野菜料理の量	13
(3) 1日に2回以上主食、主菜、副菜の3つを組み合わせることで食べること	15
(4) 運動の頻度	17
(5) 運動の期間	18
(6) 日常生活で体を動かす時間	21
(7) ロコモティブシンドロームの認知状況	24
(8) 現在の健康状態	26
(9) 飲酒頻度	29
(10) 1日あたりの飲酒量	30
(11) 喫煙状況	33
(12) 睡眠での十分な休養	35
(13) こころの問題を気軽に相談できる場所・窓口について	37
(14) かかりつけ歯科医の有無	39
(15) 5つの生活習慣に気をつけるとがんになるリスクが大幅に低下すること	41
テーマ3 成年後見制度について	43
(1) 成年後見制度の認知度	43
(2) 成年後見制度の利用意向	45
(3) 後見人になってほしい人	47
(4) 成年後見制度が利用されるために必要なこと	48
(5) 成年後見制度に関する周知方法	49
テーマ4 ユニバーサルデザインについて	50
(1) ユニバーサルデザインの認知状況	50

(2) ユニバーサルデザインのまちづくりで取り組んでほしいこと	52
(3) ユニバーサルデザインについて、重要だと思うもの.....	55
(4) ユニバーサルデザインについて区に期待すること	57
(5) ユニバーサルデザインに配慮する上でより改善してほしい項目	60
テーマ5 苦情処理機関「区民の声委員会」について	63
(1) 「新宿区区民の声委員会」の認知度	63
(2) 「新宿区区民の声委員会」に相談したい案件の有無	64
Ⅲ 資料（調査票）	65

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、今日的な区政課題への迅速な対応の検討や的確な事業執行を進める上での基礎資料とするため、アンケート区政モニターの方を対象にアンケート調査を実施し、今後の区政運営の参考とするものである。

2 調査の概要

《第2回》	調査対象	アンケート区政モニター 998名
	調査内容	テーマ1 生涯を通じた女性の健康づくりについて
		テーマ2 健康づくりについて
		テーマ3 成年後見制度について
		テーマ4 ユニバーサルデザインについて
		テーマ5 苦情処理機関「区民の声委員会」について
	調査期間	令和2年11月13日～令和2年11月27日
	調査方法	郵送配布・郵送回収
回答数	894票（回収率 89.6%）	

3 集計・分析結果を読む際の注意点

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 「MT」は、「Multiple Total」の略で、複数回答の合計数を示している。
- 回答はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。
- 複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがある。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表す。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。よって「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。

統計の数値を考察するにあたり、本報告書では次の表現を用いる。

(例)	⇒	(表現)
80.1～80.9%	⇒	約8割
81.0～82.9%	⇒	8割強
83.0～84.9%	⇒	8割台半ば近く
85.0～85.9%	⇒	8割台半ば
86.0～87.9%	⇒	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	⇒	9割近く
89.0～89.9%	⇒	9割弱

I 調査の概要

○ライフステージの名称及び内容は、以下のとおりである。

独身期：40歳未満の独身者

家族形成期：子どものいない40歳未満の夫婦、または一番上の子どもが入学前の人

家族成長前期：一番上の子どもが小・中学生の人

家族成長後期：一番上の子どもが高校・大学生の人

家族成熟期：64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人

(生計を別にした子どもがいる人を含む)

高齢期：65歳以上の人(生計を別にした子どもがいる人を含む)

その他：40歳から64歳の独身者、子どものいない40歳から64歳の夫婦など

4 回答者の属性

(1) 居住地域

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 四谷	105	11.7	6 戸塚	107	12.0
2 簗笥町	138	15.4	7 落合第一	92	10.3
3 榎町	95	10.6	8 落合第二	93	10.4
4 若松町	78	8.7	9 柏木	61	6.8
5 大久保	69	7.7	10 角筈・区役所	56	6.3
			計	894	100.0%

(2) 性別

選択肢	回答数	割合(%)
1 男性	340	38.0
2 女性	554	62.0
計	894	100.0%

(3) 年齢

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 18～19歳	5	0.6	9 55～59歳	82	9.2
2 20～24歳	26	2.9	10 60～64歳	58	6.5
3 25～29歳	31	3.5	11 65～69歳	56	6.3
4 30～34歳	68	7.6	12 70～74歳	72	8.1
5 35～39歳	92	10.3	13 75～79歳	46	5.1
6 40～44歳	96	10.7	14 80歳以上	55	6.2
7 45～49歳	110	12.3	無回答	7	0.8
8 50～54歳	90	10.1	計	894	100.0%

(4) 職業

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 会社員・団体職員	339	37.9	5 学生	23	2.6
2 会社役員・団体役員	51	5.7	6 専業主婦・主夫	119	13.3
3 パート・アルバイト、 非常勤、嘱託、派遣など	137	15.3	7 無職	112	12.5
4 自営業、自由業	95	10.6	8 その他	9	1.0
			無回答	9	1.0
			計	894	100.0%

(5) 職場や学校の所在地

選択肢	回答数	割合(%)
1 新宿区内	222	34.4
2 新宿区外	417	64.7
無回答	6	0.9
計	645	100.0%

(6) 同居している家族等

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 子	338	37.8	6 兄弟姉妹	41	4.6
2 妻または夫	522	58.4	7 その他	20	2.2
3 親	107	12.0	8 ひとり暮らし	205	22.9
4 祖父母	7	0.8	無回答	9	1.0
5 孫	15	1.7	回答総計	1,264	141.4%
			計	894	100.0%

(7) 同居者数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 1人	302	44.4	4 4人	44	6.5
2 2人	203	29.9	5 5人以上	9	1.3
3 3人	121	17.8	無回答	1	0.1
			計	680	100.0%

(8) 同居している子

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 一番上の子が小学校入学前	74	21.9	4 一番上の子が学校を卒業	99	29.3
2 一番上の子が小・中学生	97	28.7	無回答	10	3.0
3 一番上の子が高・大学生	58	17.2	計	338	100.0%

I 調査の概要

(9) 新宿区での居住年数

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 1年未満	0	0.0	5 10年以上20年未満	206	23.0
2 1年以上3年未満	74	8.3	6 20年以上30年未満	120	13.4
3 3年以上5年未満	92	10.3	7 30年以上	256	28.6
4 5年以上10年未満	144	16.1	無回答	2	0.2
			計	894	100.0%

(10) 住居形態

選択肢		回答数	割合 (%)
一戸建て	1 持ち家の一戸建て	201	22.5
	2 賃貸の一戸建て	21	2.3
	3 社宅・公務員官舎の一戸建て	9	1.0
	4 その他	8	0.9
集合住宅	5 分譲マンション・アパート	342	38.3
	6 賃貸マンション・アパート	234	26.2
	7 賃貸のUR都市機構（旧公団）・公社のマンション・アパート	6	0.7
	8 賃貸の都営・区営住宅	39	4.4
	9 社宅・公務員官舎	22	2.5
	10 その他	9	1.0
無回答		3	0.3
計		894	100.0%

(11) ライフステージ

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 独身期	110	12.3	5 家族成熟期	47	5.3
2 家族形成期	118	13.2	6 高齢期	229	25.6
3 家族成長前期	97	10.9	7 その他	237	26.5
4 家族成長後期	56	6.3	計	894	100.0%

Ⅱ 調査の結果

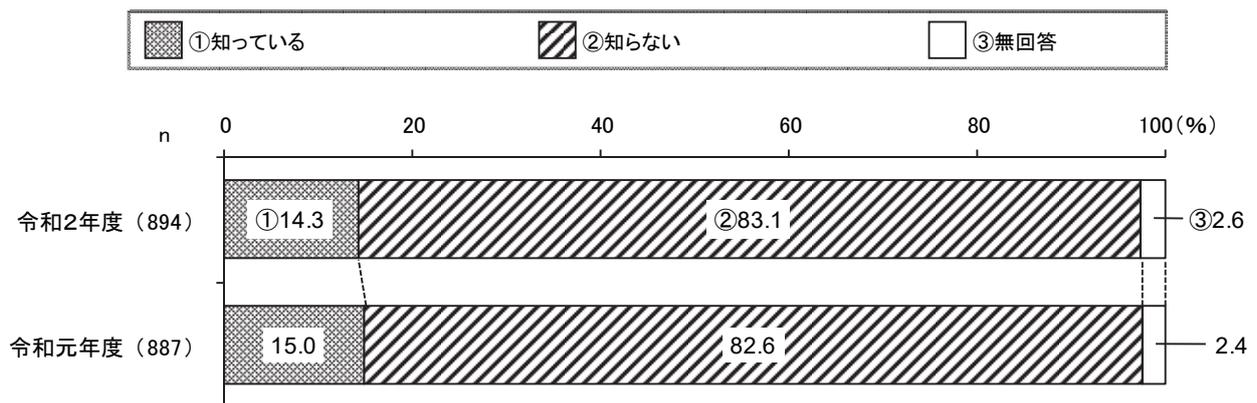
テーマ1 生涯を通じた女性の健康づくりについて

(1) 「女性の健康支援センター」の認知状況

◎「知っている」が1割台半ば近く

問1 あなたは、四谷保健センター内にある「女性の健康支援センター」を知っていますか。 (○は1つ)		(n=894)
1	知っている	14.3%
2	知らない	83.1
	無回答	2.6

図1-1-1 「女性の健康支援センター」の認知状況
(経年推移)

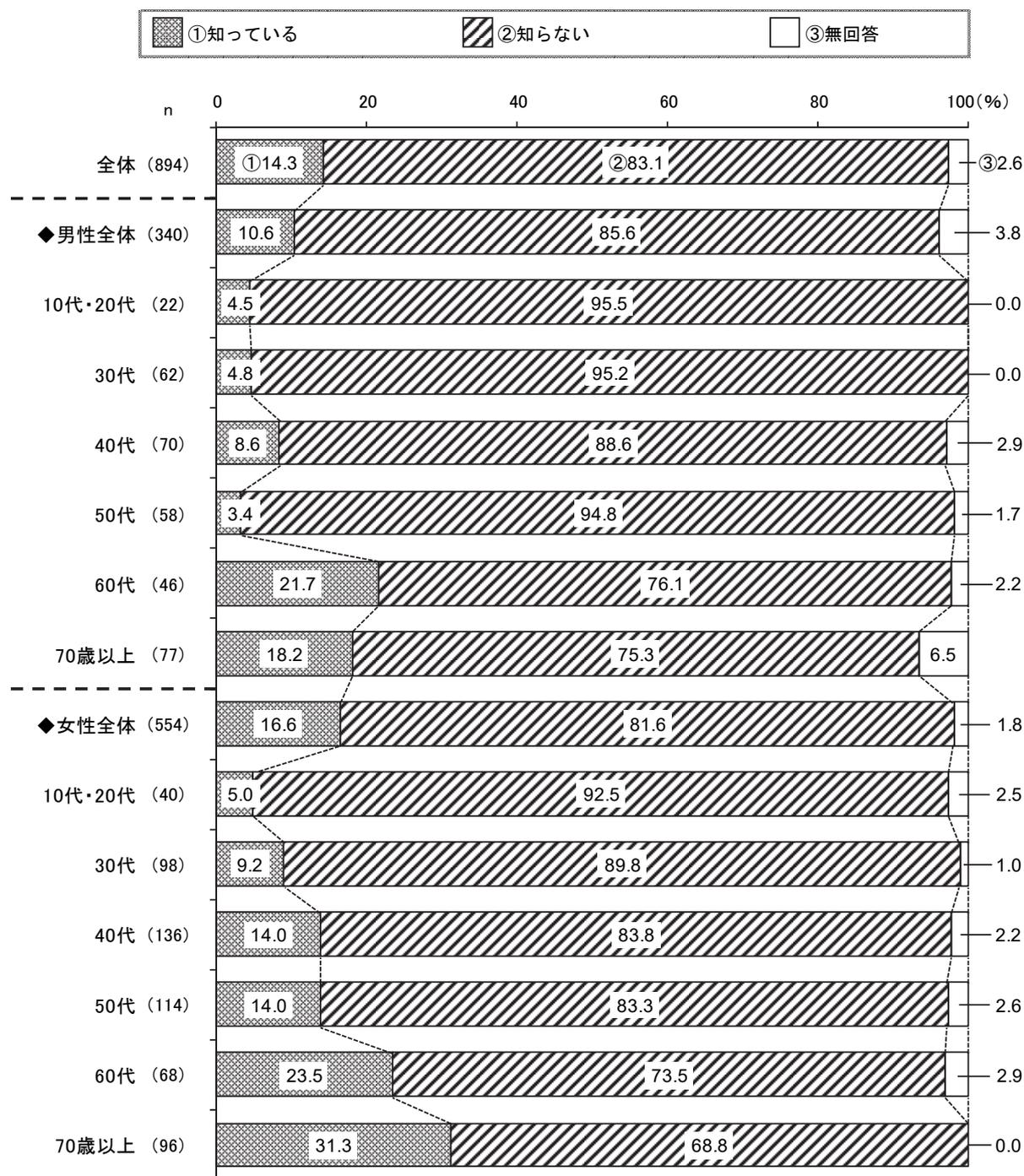


「女性の健康支援センター」の認知状況は、「知っている」(14.3%)が1割台半ば近く、「知らない」(83.1%)が8割台半ば近くとなっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、割合に大きな変化はみられない。(図1-1-1)

Ⅱ 調査の結果（テーマ1 生涯を通じた女性の健康づくりについて）

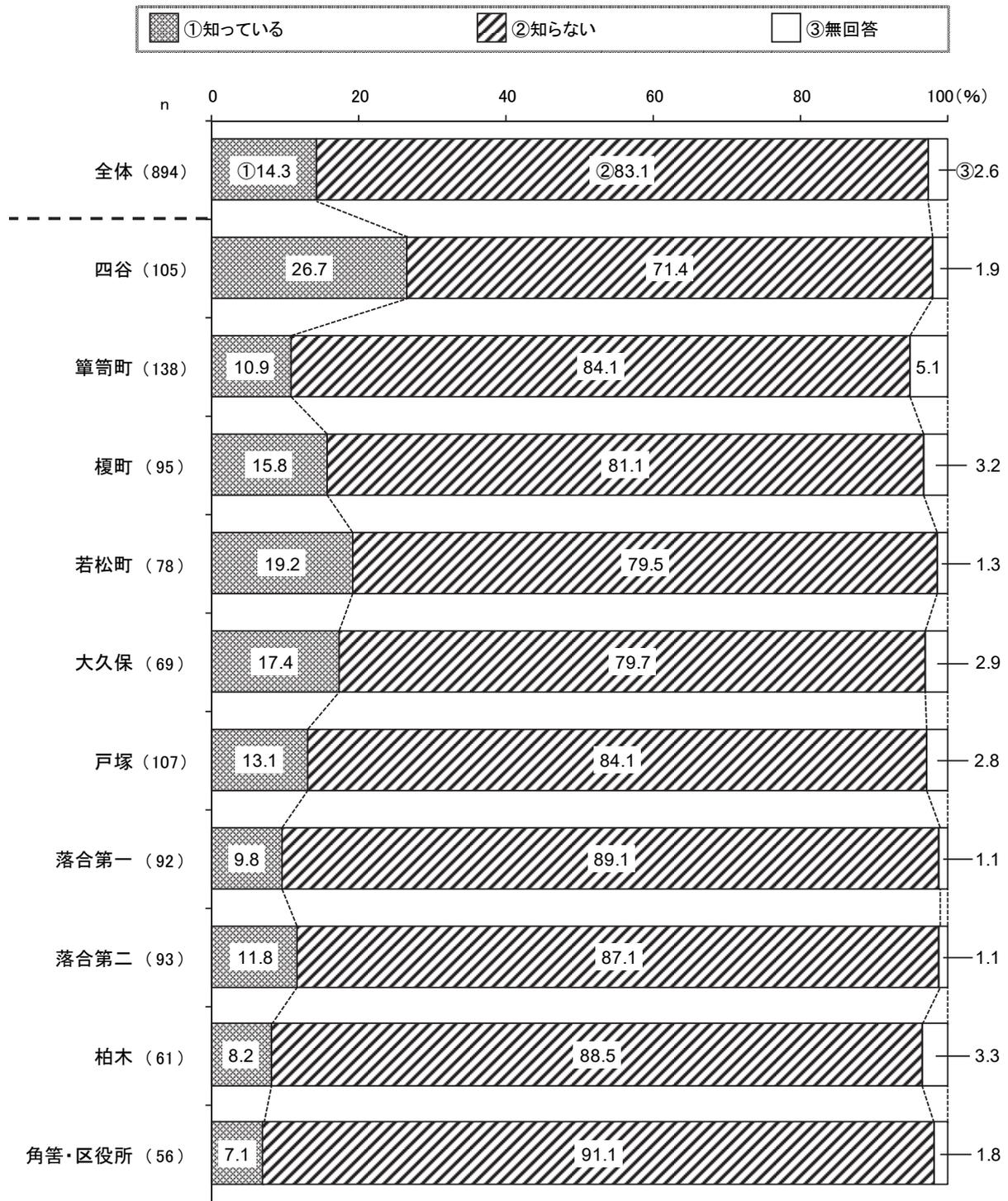
図1-1-2 「女性の健康支援センター」の認知状況
（性別・性／年代別）



性別で見ると、「知っている」は女性（16.6%）が1割台半ばを超え、男性（10.6%）を6.0ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「知っている」は女性の70歳以上（31.3%）が3割強と、全体（14.3%）を17.0ポイント上回っている。（図1-1-2）

図1-1-3 「女性の健康支援センター」の認知状況
(居住地域別)



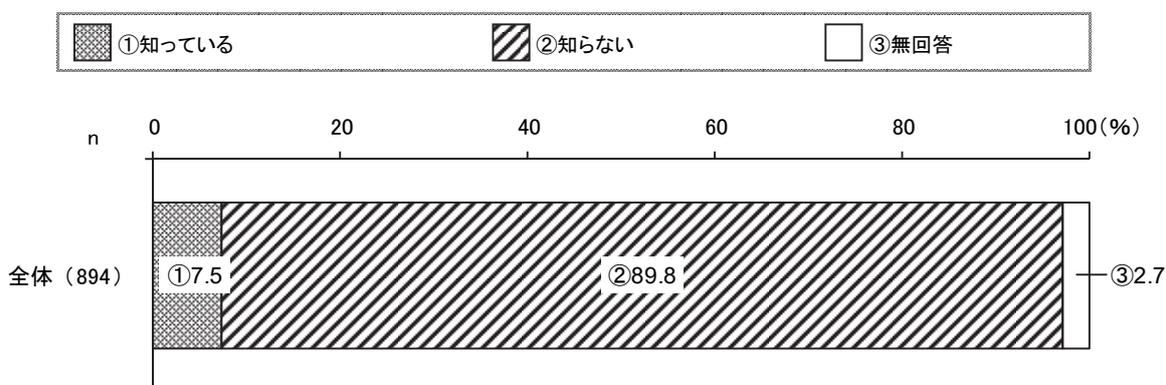
居住地域別でみると、「知っている」は四谷（26.7%）が2割台半ばを超えて最も高く、全体（14.3%）を12.4ポイント上回っている。一方、落合第一（9.8%）、柏木（8.2%）および角筈・区役所（7.1%）が1割未満と低くなっている。（図1-1-3）

（2）女性の健康専門相談の認知状況

◎「知らない」が9割弱

問2 「女性の健康支援センター」で行っている女性の健康専門相談について知っていますか。		
(○は1つ)		
		(n=894)
1	知っている	7.5%
2	知らない	89.8
	無回答	2.7

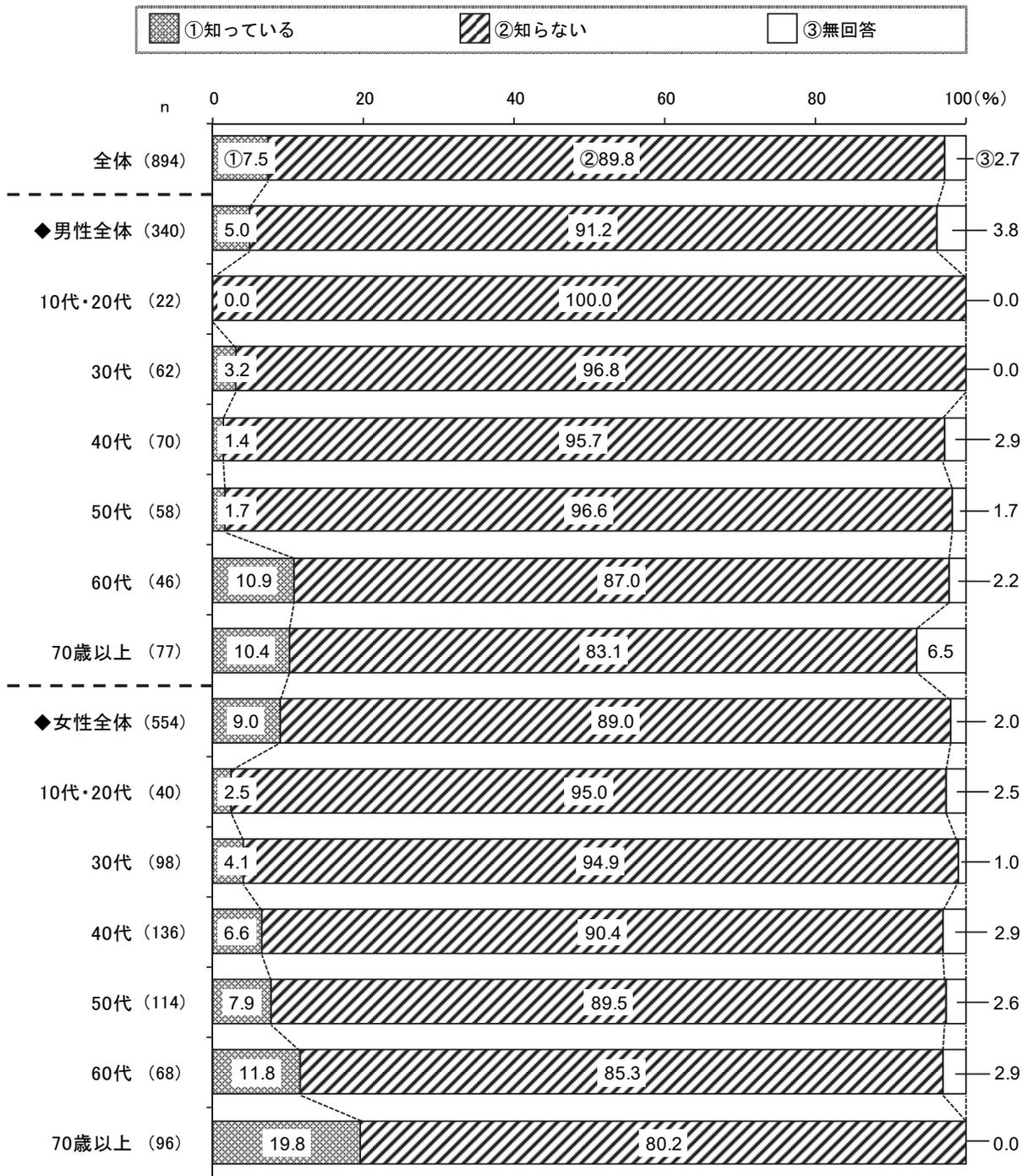
図1-2-1 女性の健康専門相談の認知状況



女性の健康専門相談の認知状況は、「知らない」(89.8%)が9割弱となっている。

(図1-2-1)

図1-2-2 女性の健康専門相談の認知状況
(性別・性/年代別)



性別でみると、男女の割合に大きな差はみられない。

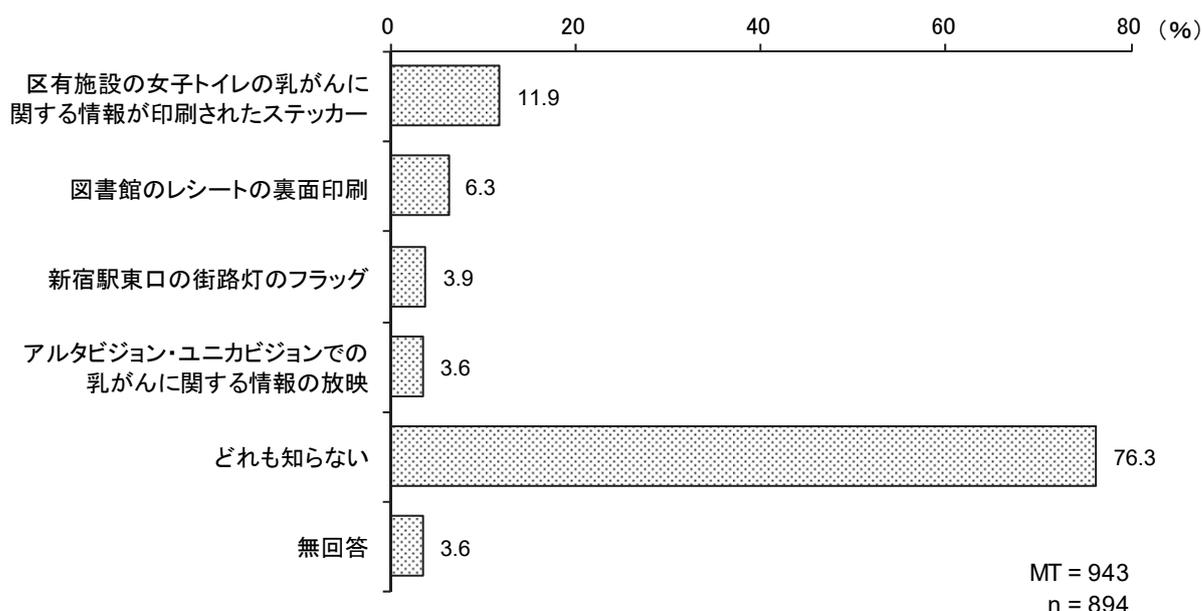
性/年代別でみると、「知っている」は女性の70歳以上(19.8%)が2割弱と、全体(7.5%)を12.3ポイント上回っている。一方、「知らない」は男性の10代・20代(100.0%)が10割と、全体(89.8%)を10.2ポイント上回っている。(図1-2-2)

（3）ピンクリボン月間に実施している取組の認知

◎「区有施設の女子トイレの乳がんに関する情報が印刷されたステッカー」が1割強

問3 区では、今年の10月のピンクリボン月間にあわせ、乳がん検診の受診勧奨や乳がんの正しい知識の普及啓発など下記の取組を行いました。あなたが知っている取組すべてに○をつけてください。（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）		(n=894)
1	図書館のレシートの裏面印刷	6.3%
2	区有施設の女子トイレの乳がんに関する情報が印刷されたステッカー	11.9
3	新宿駅東口の街路灯のフラッグ	3.9
4	アルタビジョン（新宿駅東口前の新宿アルタビル）・ユニカビジョン（新宿駅東口前の旧ヤマダ電機LABI新宿東口館）での乳がんに関する情報の放映	3.6
5	どれも知らない	76.3
	無回答	3.6

図1-3 ピンクリボン月間に実施している取組の認知



ピンクリボン月間に実施している取組の認知は、「区有施設の女子トイレの乳がんに関する情報が印刷されたステッカー」（11.9%）が1割強、「図書館のレシートの裏面印刷」（6.3%）が1割未満、「新宿駅東口の街路灯のフラッグ」（3.9%）が1割未満、「アルタビジョン（新宿駅東口前の新宿アルタビル）・ユニカビジョン（新宿駅東口前の旧ヤマダ電機LABI新宿東口館）での乳がんに関する情報の放映」（3.6%）が1割未満となっている。一方、「どれも知らない」（76.3%）が7割台半ばを超えとなっている。（図1-3）

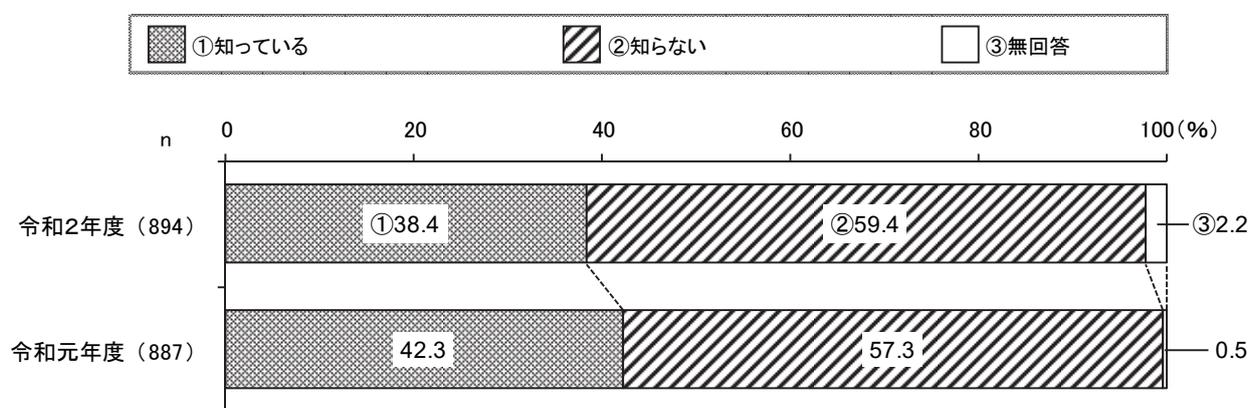
テーマ2 健康づくりについて

(1) 1日に必要な野菜の摂取量の認知状況

◎1日に必要な野菜の摂取量を「知っている」が4割近く

問4 あなたは、1日に必要な野菜の摂取量を知っていますか。(〇は1つ)		(n=894)
1	知っている	38.4%
2	知らない	59.4
	無回答	2.2

図2-1-1 1日に必要な野菜の摂取量の認知状況
(経年推移)

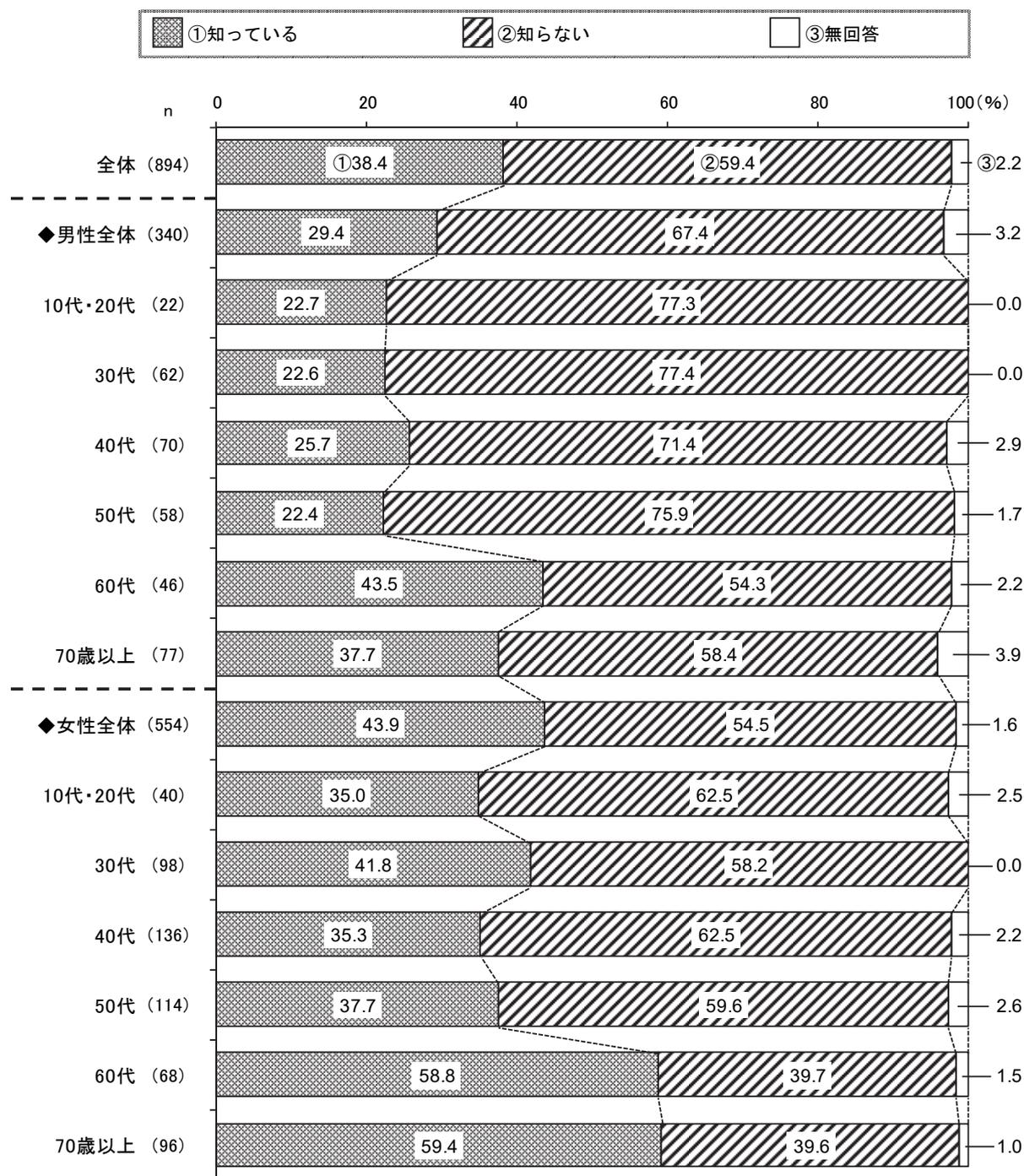


1日に必要な野菜の摂取量の認知状況は、「知っている」(38.4%)が4割近く、「知らない」(59.4%)が6割弱となっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「知っている」(38.4%)が前回(42.3%)より3.9ポイント低くなっている。(図2-1-1)

※国が推進する、「健康日本21(第二次)」では、健康増進の観点から、成人で1日350g以上の野菜を食べることが目標とされている。

図2-1-2 1日に必要な野菜の摂取量の認知状況
（性別・性／年代別）



性別でみると、「知っている」は女性（43.9%）が4割台半ば近くと、男性（29.4%）を14.5ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「知っている」は女性の70歳以上（59.4%）が6割弱で最も高い。一方、男性の50代（22.4%）が2割強で最も低くなっている。（図2-1-2）

(2) 1日に食べる野菜料理の量

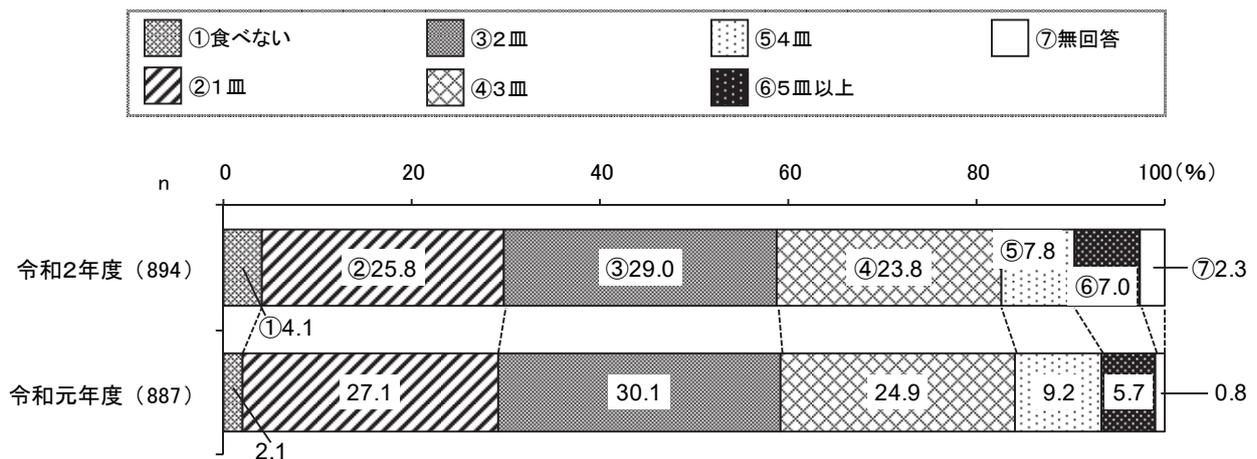
◎必要な摂取量である「5皿以上」が1割未満

問5 野菜料理を平均で1日何皿くらい食べていますか。(〇は1つ)

(1皿の量は、約70g。直径10cmの小皿(小鉢)にきれいに入る程度です)

	(n=894)
1 食べない	4.1%
2 1皿	25.8
3 2皿	29.0
4 3皿	23.8
5 4皿	7.8
6 5皿以上	7.0
無回答	2.3

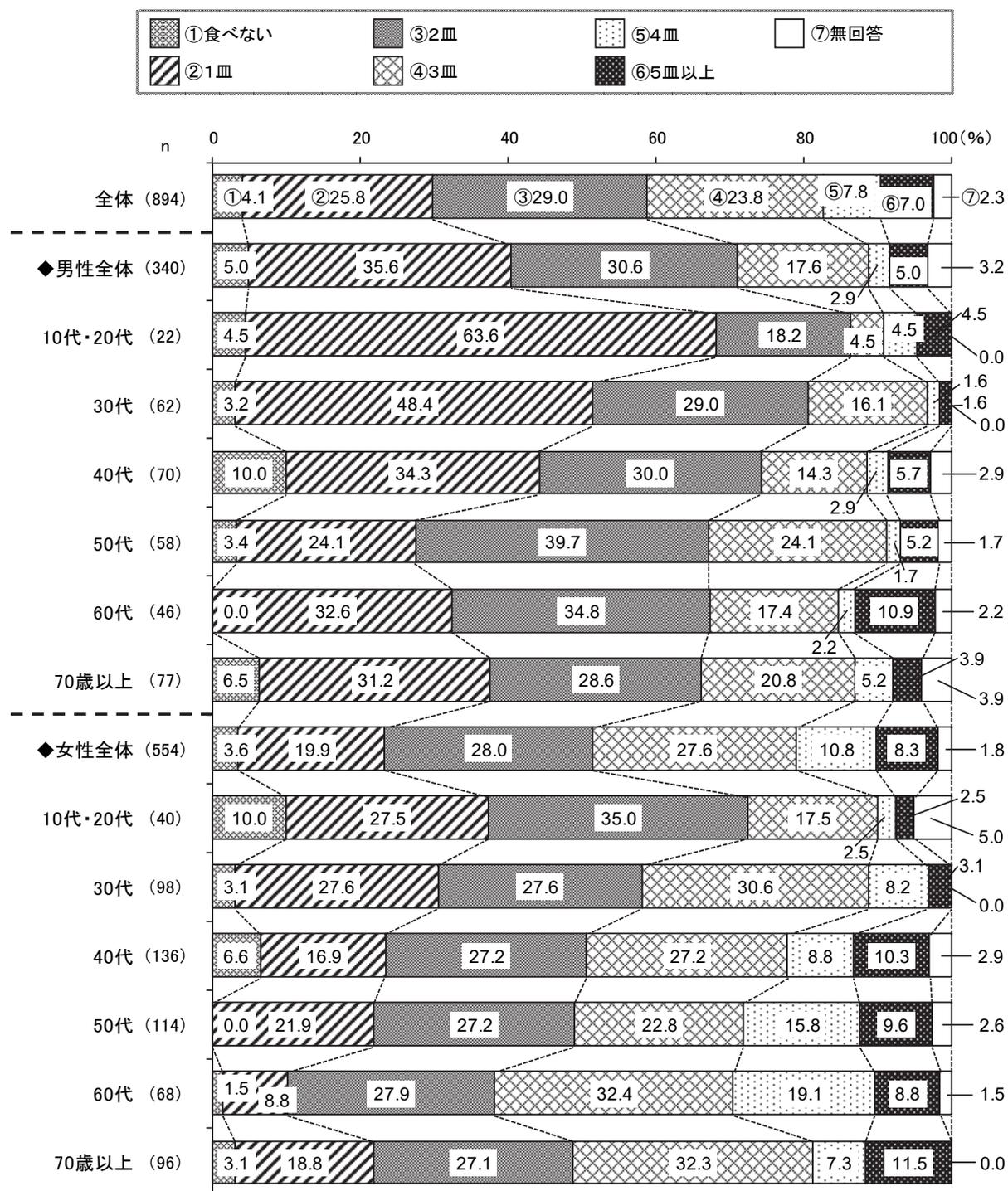
図2-2-1 1日に食べる野菜料理の量
(経年推移)



1日に食べる野菜料理の量は、「2皿」(29.0%)が3割弱で最も高く、次いで「1皿」(25.8%)が2割台半ば、「3皿」(23.8%)が2割台半ば近くと続いている。

1日に必要な摂取量である「5皿以上」(7.0%)は1割未満となっており、前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、前回(5.7%)より1.3ポイント高くなっている。(図2-2-1)

図2-2-2 1日に食べる野菜料理の量
（性別・性/年代別）



性別でみると、「1皿」は男性（35.6%）が3割台半ばと、女性（19.9%）を15.7ポイント上回っている。

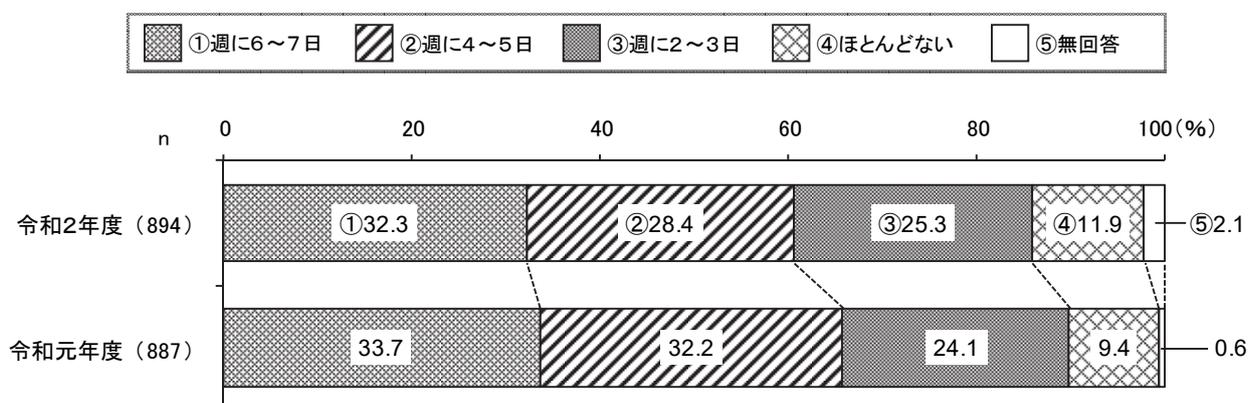
性/年代別でみると、「5皿以上」は女性の70歳以上（11.5%）が1割強で最も高く、次いで男性の60代（10.9%）が約1割、女性の40代（10.3%）が約1割となっている。（図2-2-2）

(3) 1日に2回以上主食、主菜、副菜の3つを組み合わせることで食べる

◎「週に6～7日」が3割強

問6 主食、主菜、副菜の3つを組み合わせることで1日に2回以上あるのは週に何日くらいですか。(〇は1つ)		(n=894)
1	週に6～7日	32.3%
2	週に4～5日	28.4
3	週に2～3日	25.3
4	ほとんどない	11.9
	無回答	2.1

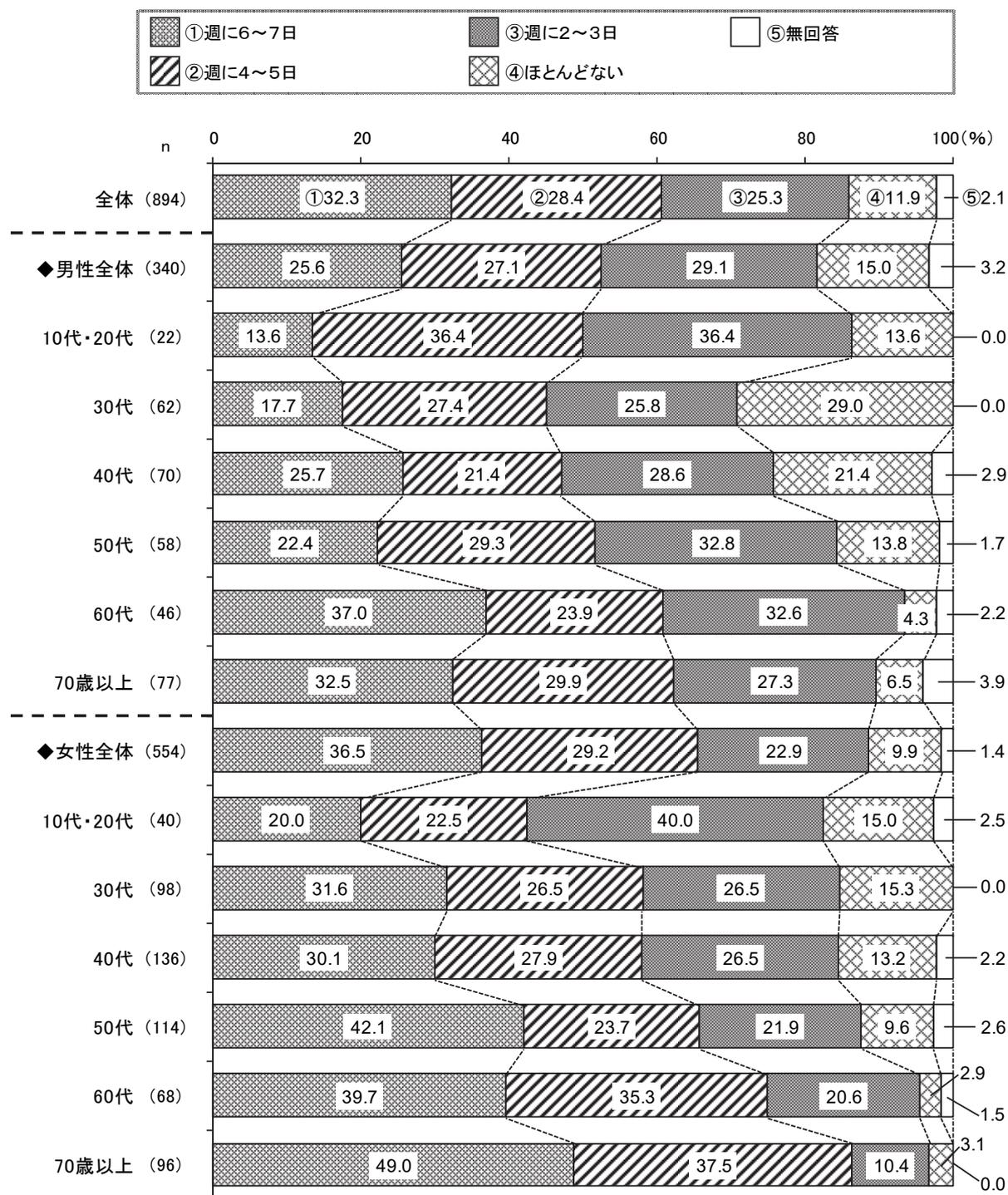
図2-3-1 1日に2回以上主食、主菜、副菜の3つを組み合わせることで食べること (経年推移)



1日に2回以上主食、主菜、副菜の3つを組み合わせることは、「週に6～7日」(32.3%)が3割強、「週に4～5日」(28.4%)が3割近く、「週に2～3日」(25.3%)が2割台半ばとなっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「週に6～7日」(32.3%)が前回(33.7%)より1.4ポイント低くなっている。(図2-3-1)

図2-3-2 1日に2回以上主食、主菜、副菜の3つを組み合わせることで食べること
（性別・性/年代別）



性別でみると、「週に6～7日」は女性（36.5%）が3割台半ばを超え、男性（25.6%）を10.9ポイント上回っている。

性/年代別でみると、「週に6～7日」は女性の70歳以上（49.0%）が5割弱で最も高くなっており、全体（32.3%）を16.7ポイント上回っている。（図2-3-2）

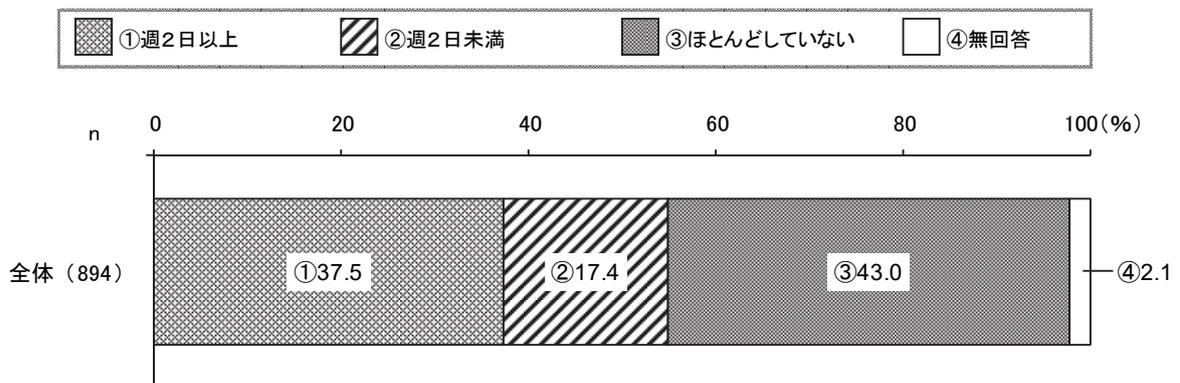
(4) 運動の頻度

◎「週2日以上」は3割台半ばを超え

問7 あなたは、一日合計30分以上の運動（軽く汗をかく程度以上の運動）を1週間でどれくらいしていますか。（○は1つ）

	(n=894)
1 週2日以上	37.5%
2 週2日未満	17.4
3 ほとんどしていない	43.0
無回答	2.1

図2-4 運動の頻度



運動の頻度は、「週2日以上」(37.5%)が3割台半ばを超え、「週2日未満」(17.4%)が1割台半ばを超え、「ほとんどしていない」(43.0%)が4割台半ば近くとなっている。(図2-4)

（5）運動の期間

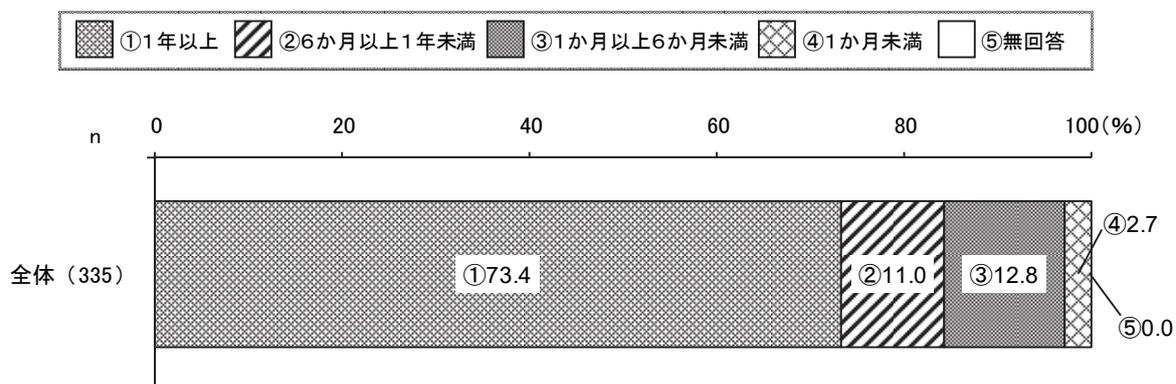
◎「1年以上」が7割台半ば近く

問7-1 問7で、「1」に○をした方にお伺いします。

その運動をどれくらいの期間継続していますか。（○は1つ）

	(n=335)
1 1年以上	73.4%
2 6か月以上1年未満	11.0
3 1か月以上6か月未満	12.8
4 1か月未満	2.7
無回答	0.0

図2-5 運動の期間



運動の期間は、「1年以上」(73.4%)が7割台半ば近くとなっている。(図2-5)

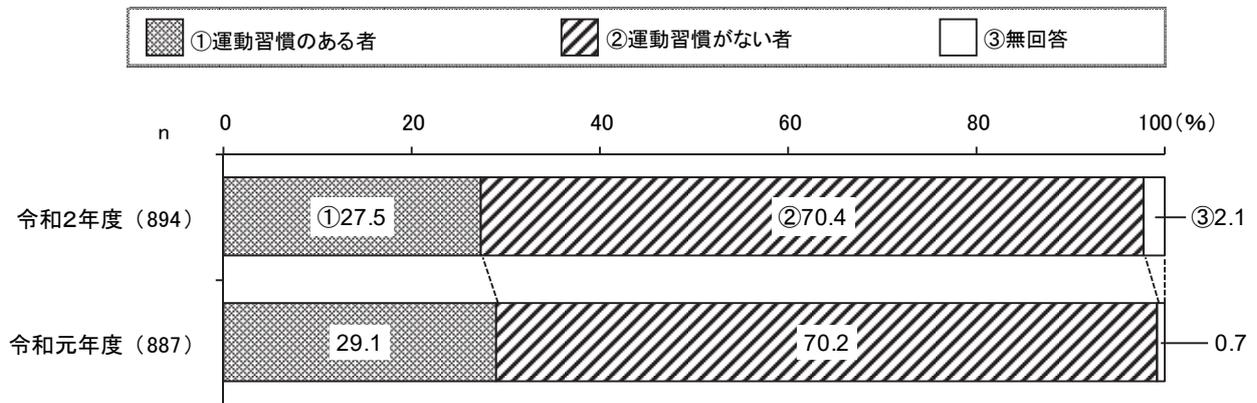
(参考) 運動習慣のある者について

◎厚生労働省で毎年実施している「国民健康・栄養調査」では「運動習慣のある者」とは、
1回30分以上の運動を、週に2回以上実施し、1年以上持続している者とされている

(参考) 運動習慣のある者にあてはめた結果は次のようになりました。

	(n=894)
1 運動習慣のある者	27.5%
※問7で「週2日以上」、問7-1「1年以上」と回答した方	
2 運動習慣がない者	70.4
無回答	2.1

**(参考) 運動習慣のある者について
(経年推移)**

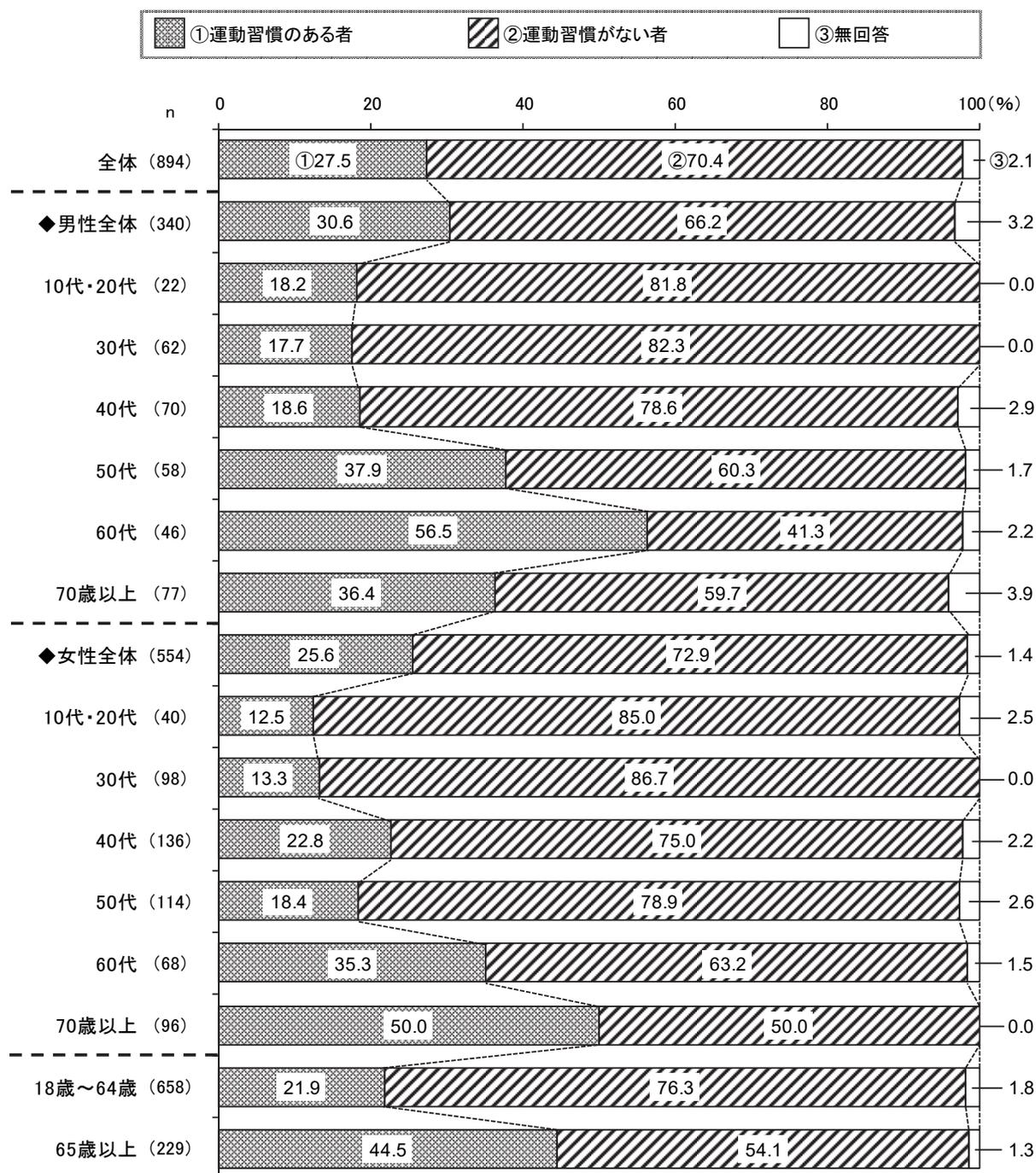


運動習慣のある者について、「運動習慣のある者」(27.5%)が2割台半ばを超え、「運動習慣がない者」(70.4%)が約7割となっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、割合に大きな変化はみられない。

II 調査の結果（テーマ2 健康づくりについて）

（参考）運動習慣のある者について
（性別・性／年代別、年齢（2区分）別）



性別でみると、「運動習慣のある者」は男性（30.6%）が約3割と、女性（25.6%）を5.0ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「運動習慣のある者」は男性の60代（56.5%）が5割台半ばを超えて最も高く、次いで女性の70歳以上（50.0%）が5割となっている。

年齢（2区分）別でみると、「運動習慣のある者」は65歳以上（44.5%）が4割台半ば近くと、18～64歳（21.9%）を22.6ポイント上回っている。

(6) 日常生活で体を動かす時間

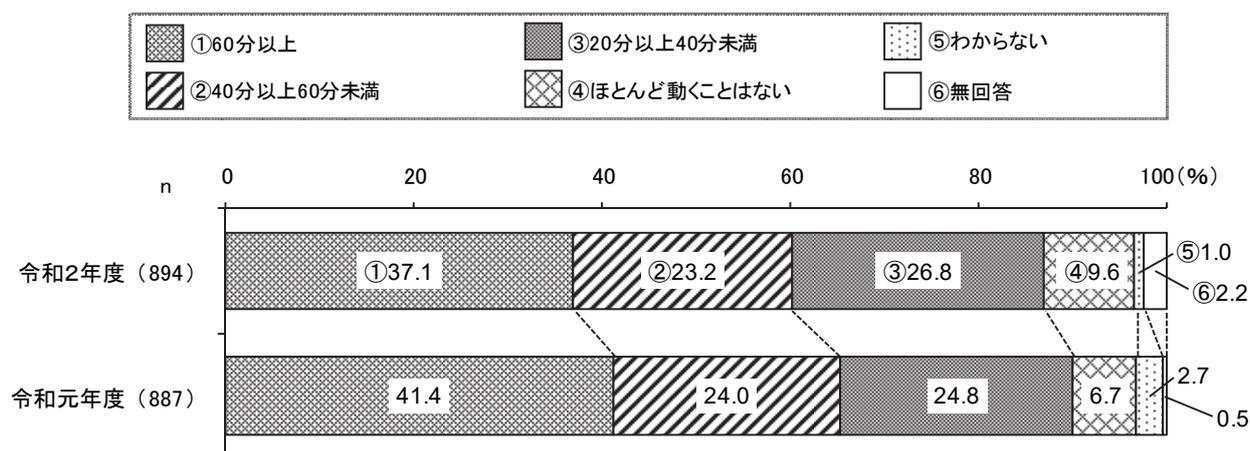
◎「60分以上」が3割台半ばを超え

問8 日常生活で体を動かすことについておたずねします。
あなたは毎日どれくらい体を動かしていますか。(〇は1つ)

(n=894)

1	60分以上	37.1%
2	40分以上60分未満	23.2
3	20分以上40分未満	26.8
4	ほとんど動くことはない	9.6
5	わからない	1.0
	無回答	2.2

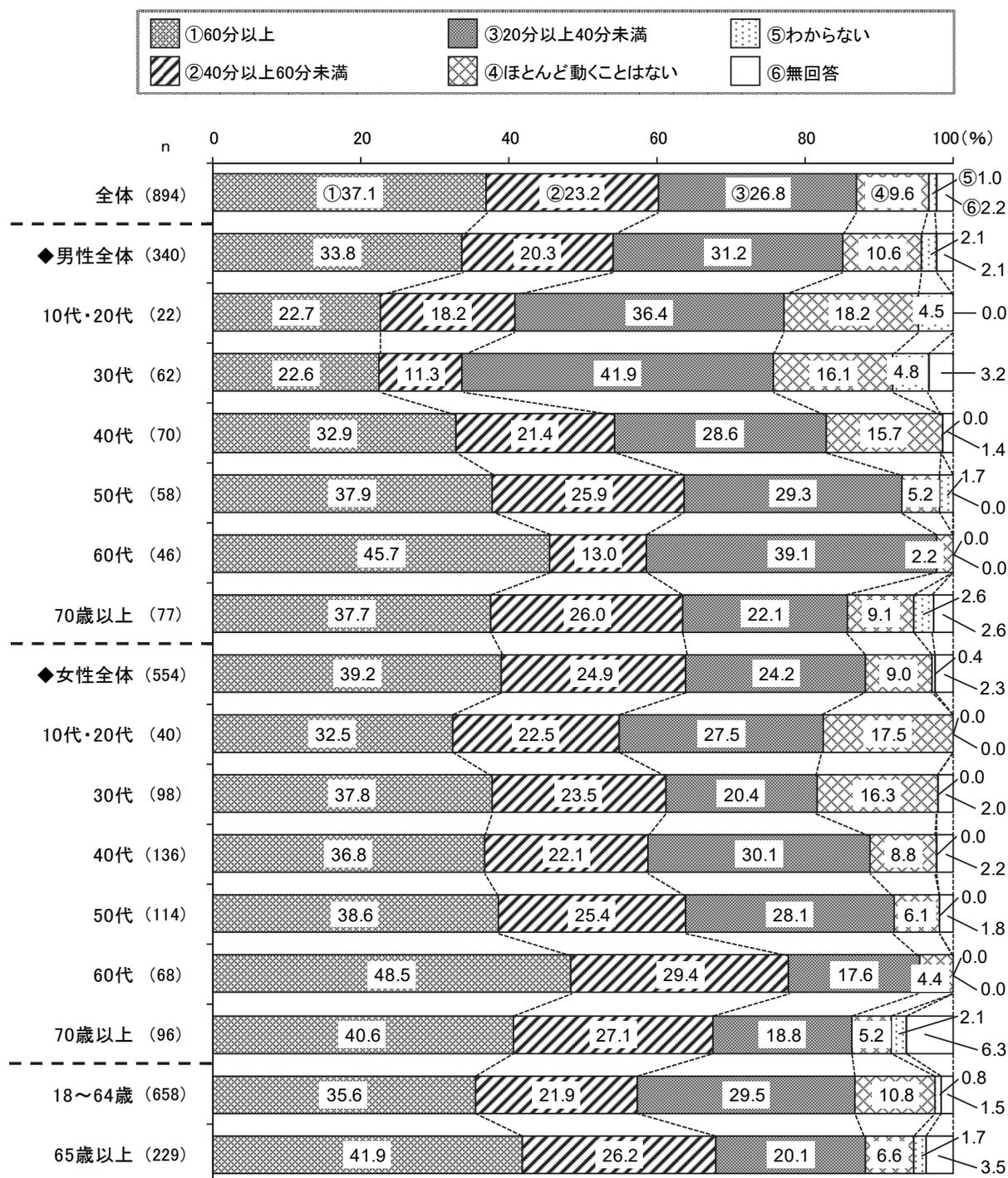
図2-6-1 日常生活で体を動かす時間
(経年推移)



日常生活で体を動かす時間は、「60分以上」(37.1%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「20分以上40分未満」(26.8%)が2割台半ばを超え、「40分以上60分未満」(23.2%)が2割台半ば近くとなっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「60分以上」(37.1%)が前回(41.4%)より4.3ポイント低くなっている。(図2-6-1)

図2-6-2 日常生活で体を動かす時間
（性別・性/年代別、年齢（2区分）別）



性別で見ると、「60分以上」は女性（39.2%）が4割弱と、男性（33.8%）を5.4ポイント上回っている。「40分以上60分未満」は女性（24.9%）が2割台半ば近くと、男性（20.3%）を4.6ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「60分以上」は女性の60代（48.5%）が5割近くで最も高く、次いで男性の60代（45.7%）が4割台半ばとなっている。（図2-6-2）

(参考)

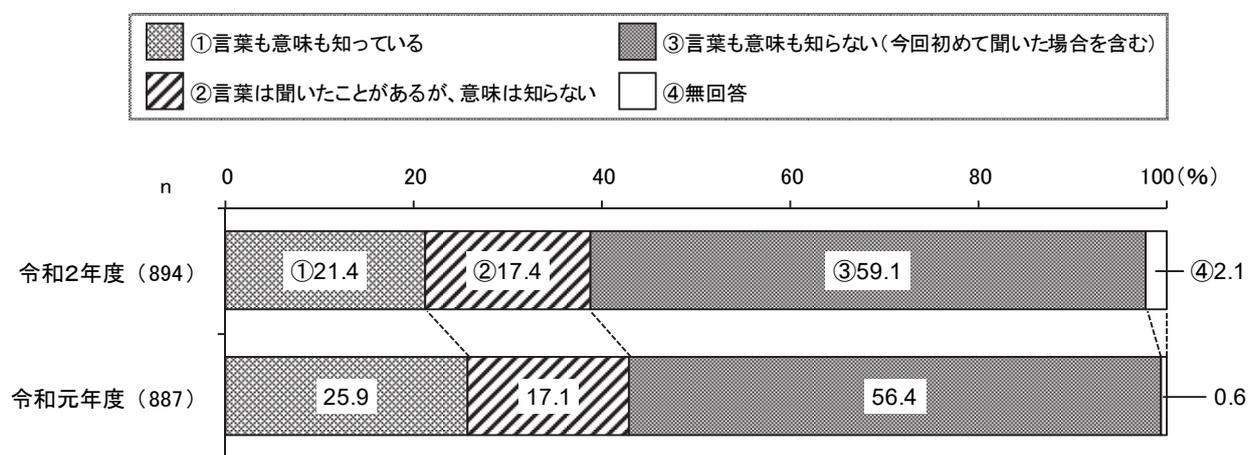
年齢を18～64歳と65歳以上とに区分し「身体活動基準2013」(厚生労働省)で推奨されている身体活動(18～64歳:毎日60分以上、65歳以上:毎日40分以上)をしている割合を抜き出すと、18～64歳は35.6%、65歳以上は68.1%となっている。

（7）ロコモティブシンドロームの認知状況

◎「言葉も意味も知っている」が2割強

問9 あなたは、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）という言葉やその意味を知っていましたか。（〇は1つ）		(n=894)
1	言葉も意味も知っている	21.4%
2	言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない	17.4
3	言葉も意味も知らない（今回初めて聞いた場合を含む）	59.1
	無回答	2.1

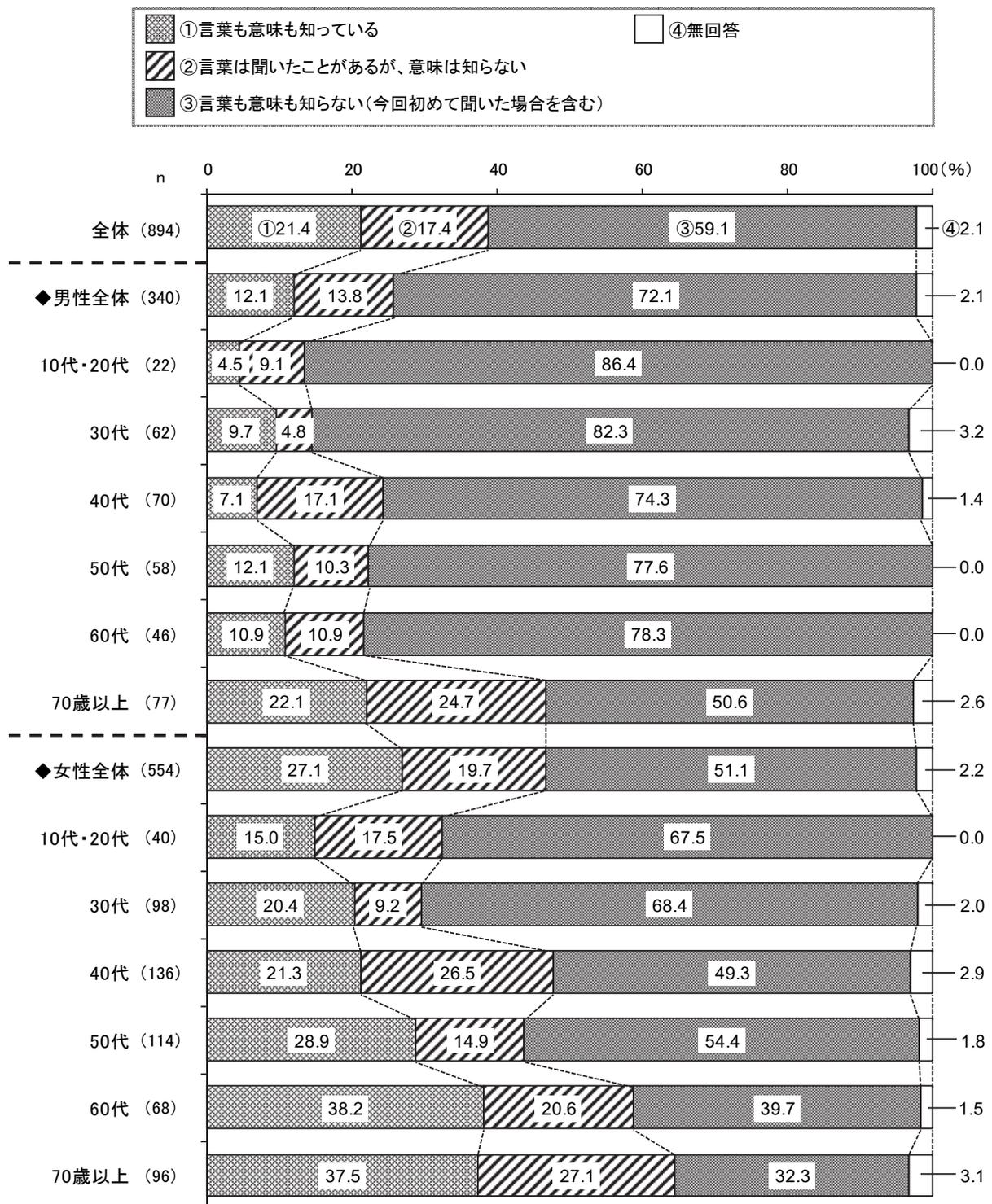
図2-7-1 ロコモティブシンドロームの認知状況
（経年推移）



ロコモティブシンドロームの認知状況は、「言葉も意味も知っている」（21.4%）が2割強、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」（17.4%）が1割台半ばを超え、「言葉も意味も知らない（今回初めて聞いた場合を含む）」（59.1%）が6割弱となっている。

前回の調査結果（令和元年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、「言葉も意味も知っている」（21.4%）が前回（25.9%）より4.5ポイント低くなっている。（図2-7-1）

図2-7-2 ロコモティブシンドロームの認知状況
(性別・性/年代別)



性別でみると、「言葉も意味も知っている」は女性(27.1%)が2割台半ばを超え、男性(12.1%)を15.0ポイント上回っている。一方、「言葉も意味も知らない(今回初めて聞いた場合を含む)」は男性(72.1%)が7割強と、女性(51.1%)を21.0ポイント上回っている。

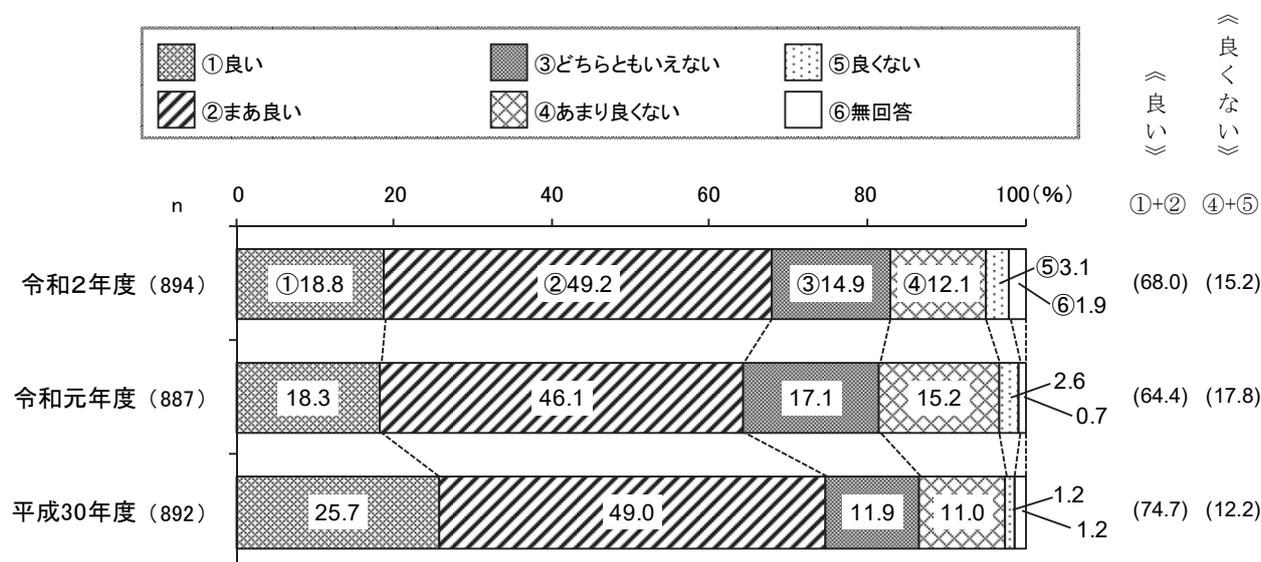
性/年代別でみると、「言葉も意味も知っている」は女性の60代(38.2%)が4割近くで最も高く、次いで女性の70歳以上(37.5%)が3割台半ばを超えとなっている。(図2-7-2)

（8）現在の健康状態

◎ 《良い》が7割近く

問10 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。（○は1つ）		(n=894)
1	良い	18.8%
2	まあ良い	49.2
3	どちらともいえない	14.9
4	あまり良くない	12.1
5	良くない	3.1
	無回答	1.9

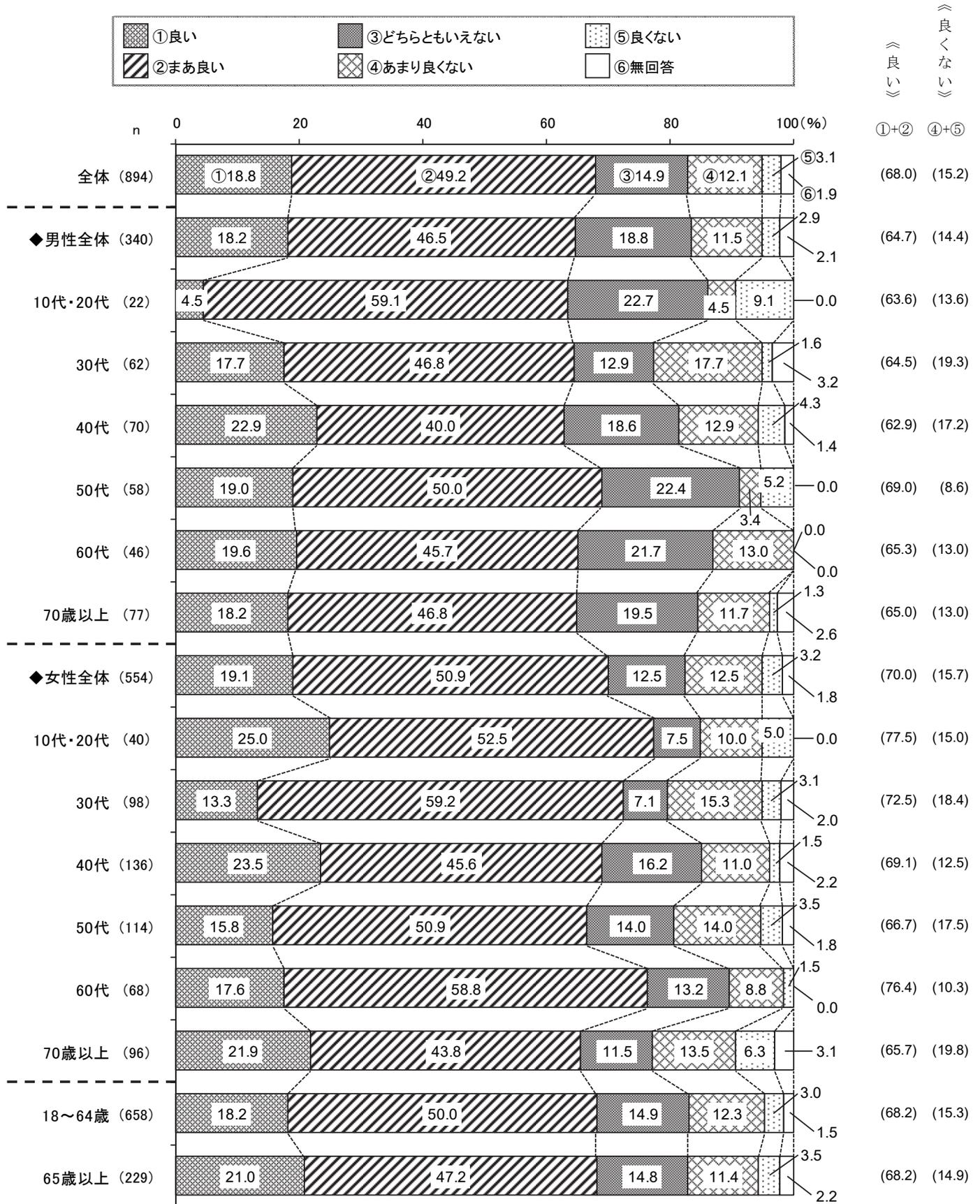
図2-8-1 現在の健康状態
(経年推移)



現在の健康状態は、「良い」(18.8%)と「まあ良い」(49.2%)を合わせた《良い》(68.0%)が7割近く、「あまり良くない」(12.1%)と「良くない」(3.1%)を合わせた《良くない》(15.2%)が1割台半ばとなっている。

過去3年間の経年推移をみると、《良い》(68.0%)が平成30年度(74.7%)より6.7ポイント低くなっている。(図2-8-1)

図2-8-2 現在の健康状態
(性別・性/年代別、年齢(2区分)別)



Ⅱ 調査の結果（テーマ2 健康づくりについて）

性別で見ると、《良い》は女性（70.0%）が7割と、男性（64.7%）を5.3ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、《良い》は女性の10代・20代（77.5%）が7割台半ばを超えて最も高く、次いで女性の60代（76.4%）が7割台半ばを超えとなっている。

年齢（2区分）別で見ると、大きな差はみられない。（図2-8-2）

(9) 飲酒頻度

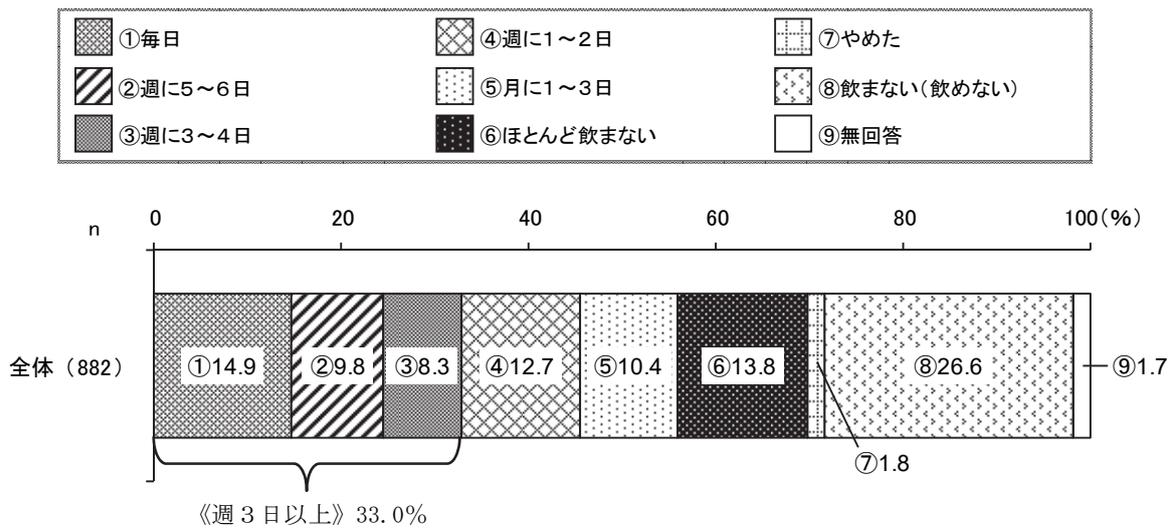
◎《週3日以上》が3割台半ば近く

【問うで、「20～24歳」～「14～80歳以上」に○をした方】のみで集計

問11 あなたは週に何日くらいお酒（清酒、焼酎、洋酒など）を飲みますか。（○は1つ） (n=882)

1 毎日	14.9%
2 週に5～6日	9.8
3 週に3～4日	8.3
4 週に1～2日	12.7
5 月に1～3日	10.4
6 ほとんど飲まない	13.8
7 やめた	1.8
8 飲まない（飲めない）	26.6
無回答	1.7

図2-9 飲酒頻度



飲酒頻度は、「飲まない（飲めない）」(26.6%)が2割台半ばを超えとなっている。「毎日」(14.9%)と「週に5～6日」(9.8%)と「週に3～4日」(8.3%)を合わせた《週3日以上》(33.0%)が3割台半ば近くとなっている。(図2-9)

Ⅱ 調査の結果（テーマ2 健康づくりについて）

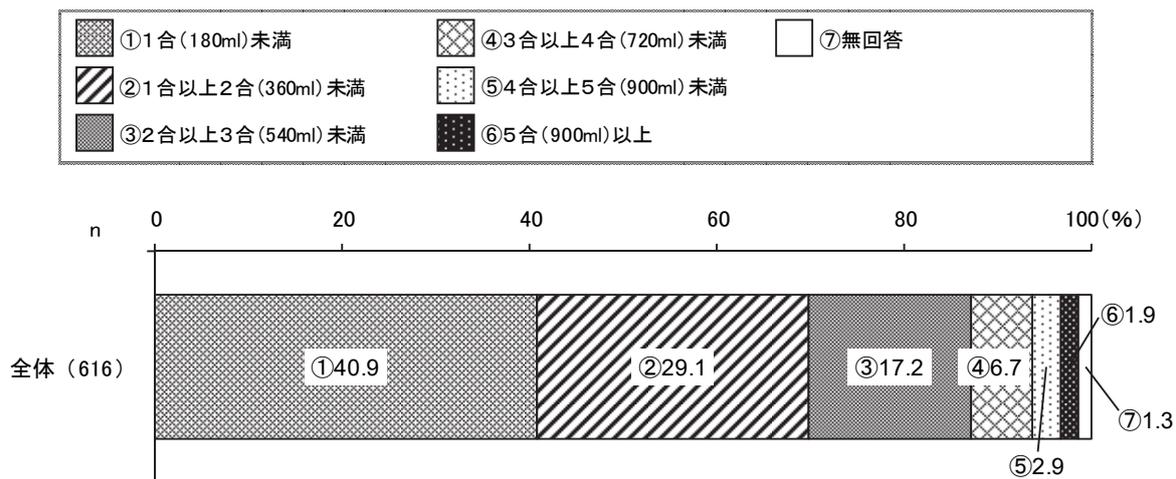
(10) 1日あたりの飲酒量

◎お酒を飲む量は1日「1合（180ml）未満」が約4割

【問うで、「2 20～24歳」～「14 80歳以上」に○をした方】のみで集計
問11-1 問11で、「1」～「6」に○をした方にお伺いします。
お酒を飲む日は1日あたり、どれくらいの量を飲みますか。（○は1つ）

	(n=616)
1 1合（180ml）未満	40.9%
2 1合以上2合（360ml）未満	29.1
3 2合以上3合（540ml）未満	17.2
4 3合以上4合（720ml）未満	6.7
5 4合以上5合（900ml）未満	2.9
6 5合（900ml）以上	1.9
無回答	1.3

図2-10 1日あたりの飲酒量



1日あたりの飲酒量は、「1合（180ml）未満」（40.9%）が約4割で最も高く、次いで「1合以上2合（360ml）未満」（29.1%）が3割弱、「2合以上3合（540ml）未満」（17.2%）が1割台半ばを超えとなっている。（図2-10）

(参考) 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者について

◎厚生労働省で毎年実施している「国民健康・栄養調査」では「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者」とは、1日当たりの純アルコール摂取量が男性で40g以上、女性20g以上の者とされており、以下の方法で算出。

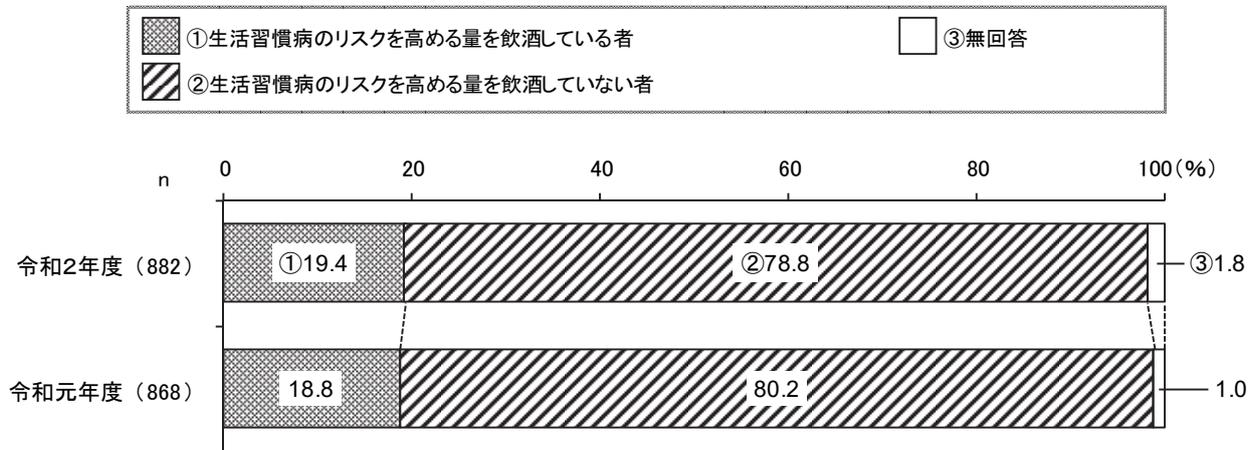
- ①男性：「毎日×2合以上」＋「週5～6日×2合以上」＋「週3～4日×3合以上」＋
「週1～2日×5合以上」＋「月1～3日×5合以上」
- ②女性：「毎日×1合以上」＋「週5～6日×1合以上」＋「週3～4日×1合以上」＋
「週1～2日×3合以上」＋「月1～3日×5合以上」

【問うで、「20～24歳」～「14～80歳以上」に○をした方】のみで集計

(参考) 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者にあてはめた結果は次のようになりました。

	(n=882)
1 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者	19.4%
※問11と問11-1で上記の条件にあてはまる回答をした方	
2 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒していない者	78.8
無回答	1.8

**(参考) 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者について
(経年推移)**

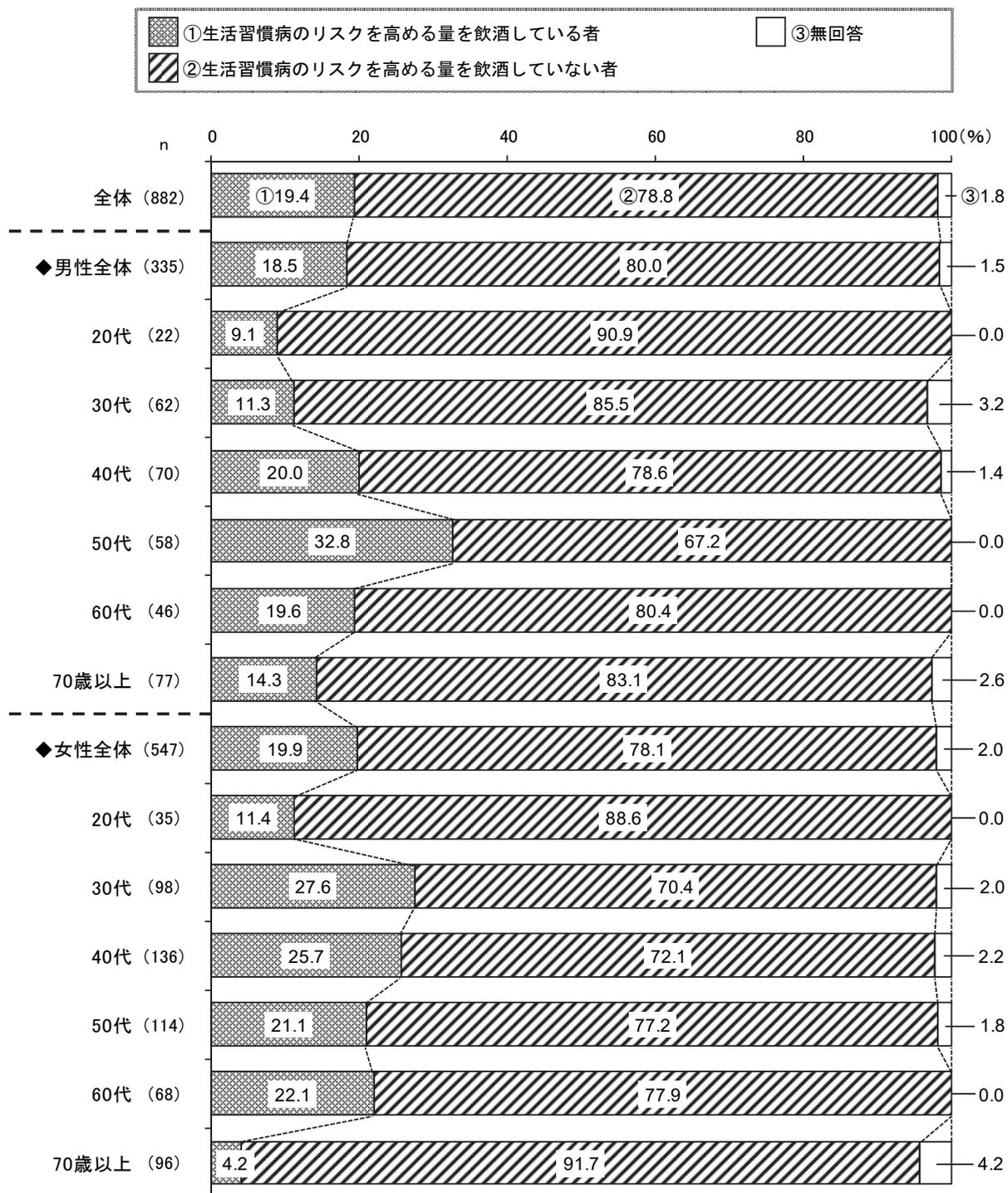


生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者について、「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者」(19.4%)が2割弱、「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒していない者」(78.8%)が8割近くとなっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、割合に大きな変化はみられない。

II 調査の結果（テーマ2 健康づくりについて）

（参考）生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者について
（性別・性／年代別）



性別でみると、男女の割合に大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者」は男性の50代（32.8%）が3割強で最も高くなっており、全体（19.4%）を13.4ポイント上回っている。

(11) 喫煙状況

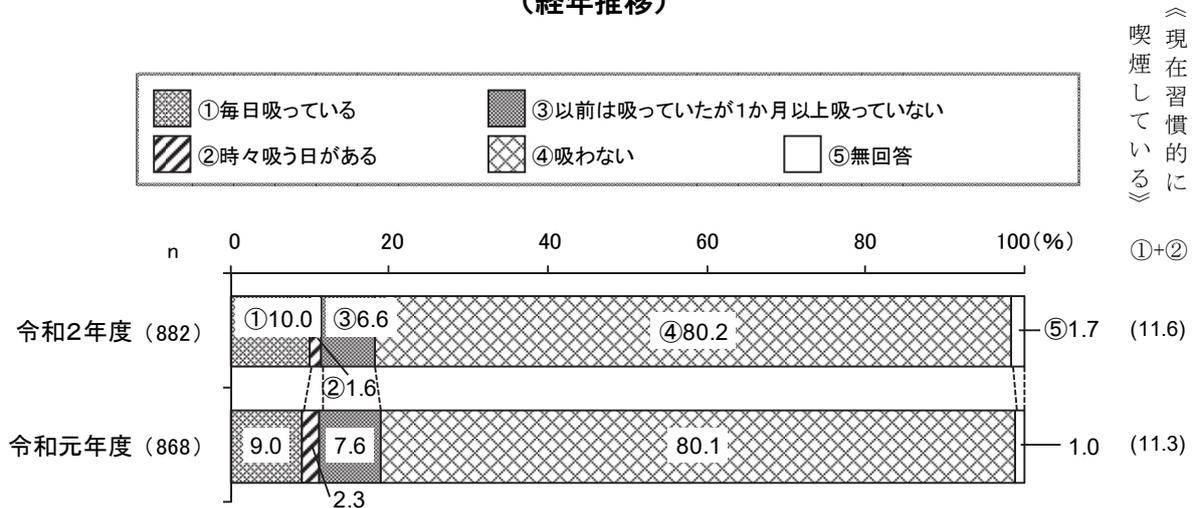
◎たばこを「吸わない」が約8割

【問うで、「20～24歳」～「14歳以上」に○をした方】のみで集計

問12 あなたは、たばこを吸いますか。(○は1つ)

	(n=882)
1 毎日吸っている	10.0%
2 時々吸う日がある	1.6
3 以前は吸っていたが1か月以上吸っていない	6.6
4 吸わない	80.2
無回答	1.7

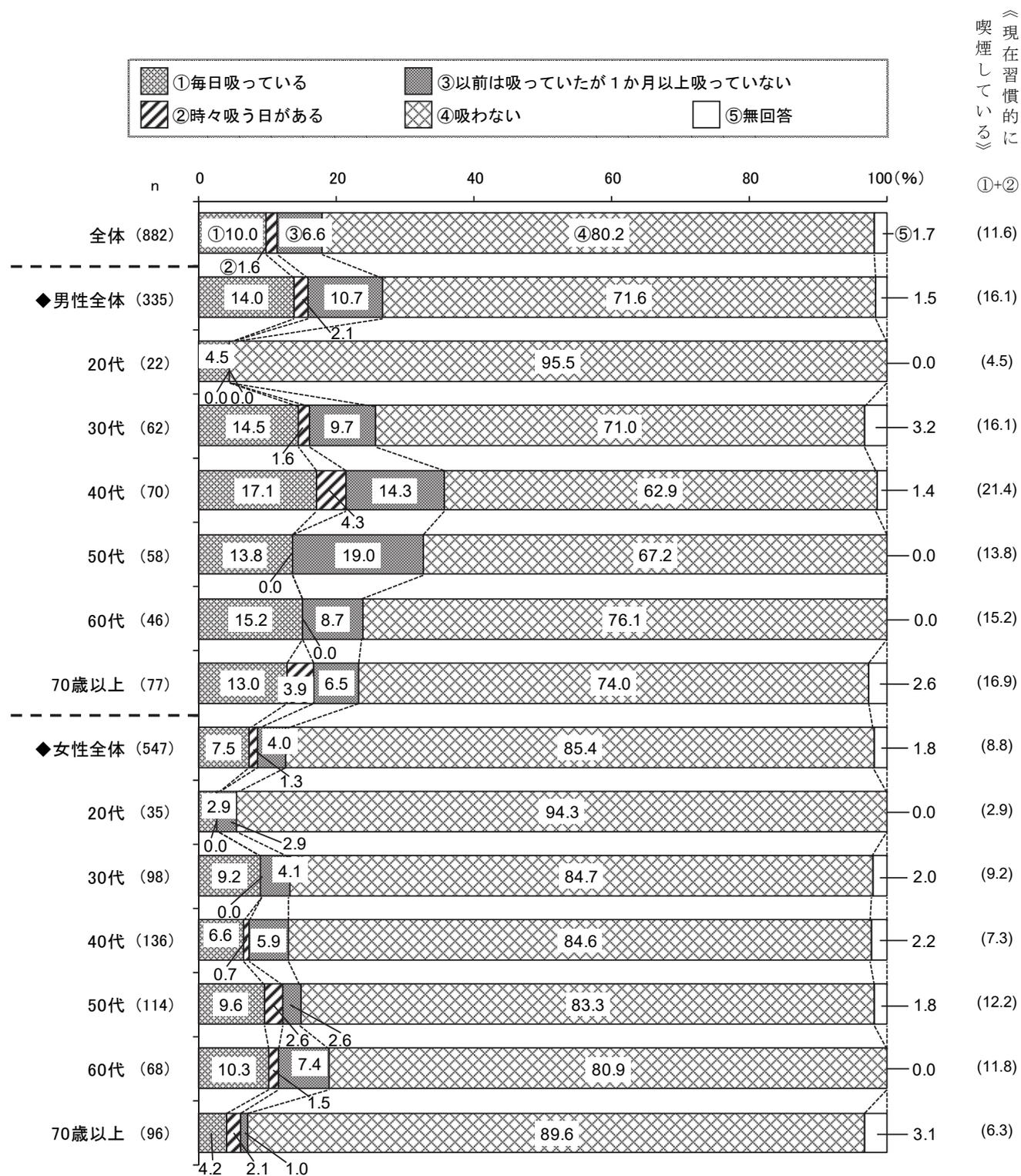
図2-11-1 喫煙状況
(経年推移)



喫煙状況は、「吸わない」(80.2%)が約8割となっている。「毎日吸っている」(10.0%)と「時々吸う日がある」(1.6%)を合わせた《現在習慣的に喫煙している》(11.6%)が1割強となっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、割合に大きな変化はみられない。(図2-11-1)

図2-11-2 喫煙状況
(性別・性/年代別)



性別で見ると、「吸わない」は女性（85.4%）が8割台半ばと、男性（71.6%）を13.8ポイント上回っている。

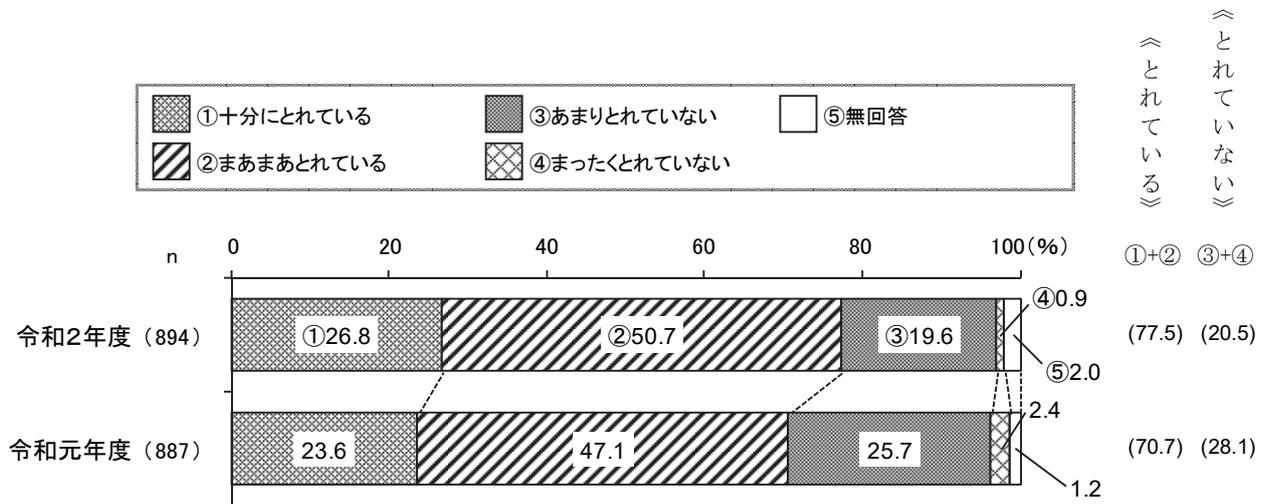
性/年代別で見ると、「現在習慣的に喫煙している」は男性の40代（21.4%）が2割強で最も高くなっており、全体（11.6%）を9.8ポイント上回っている。（図2-11-2）

(12) 睡眠での十分な休養

◎ 《とれている》が7割台半ばを超え

問13 この1か月、あなたは睡眠で休養が十分とれていますか。(〇は1つ)		(n=894)
1	十分にとれている	26.8%
2	まあまあとれている	50.7
3	あまりとれていない	19.6
4	まったくとれていない	0.9
	無回答	2.0

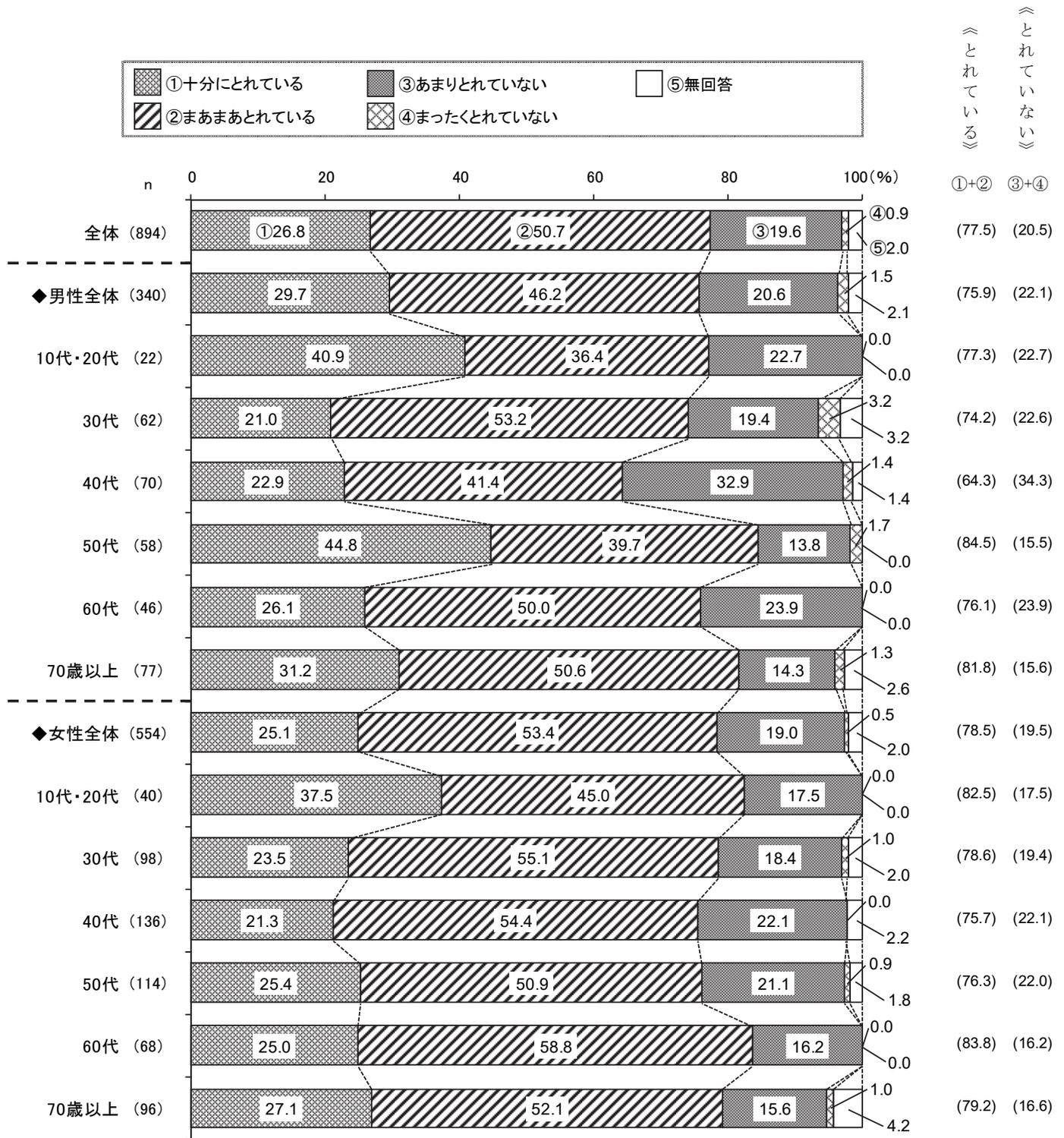
図2-12-1 睡眠での十分な休養
(経年推移)



睡眠での十分な休養は、「十分にとれている」(26.8%)と「まあまあとれている」(50.7%)を合わせた《とれている》(77.5%)が7割台半ばを超え、「あまりとれていない」(19.6%)と「まったくとれていない」(0.9%)を合わせた《とれていない》(20.5%)が約2割となっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、《とれている》(77.5%)が前回(70.7%)より6.8ポイント高くなっている。(図2-12-1)

図2-12-2 睡眠での十分な休養
（性別・性／年代別）



性別でみると、《とれている》は女性（78.5%）が8割近くと、男性（75.9%）を2.6ポイント上回っている。

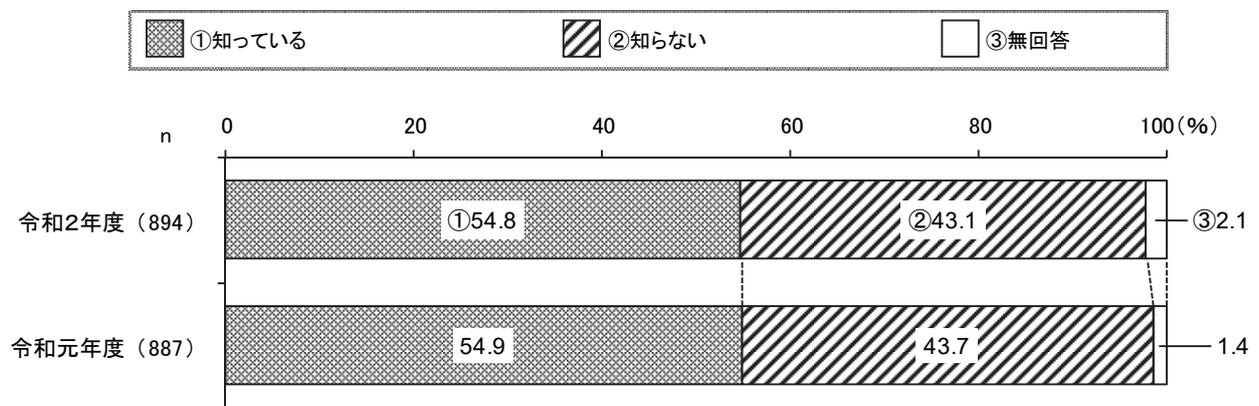
性／年代別でみると、《とれている》は男性の50代（84.5%）が8割台半ば近くで最も高く、次いで女性の60代（83.8%）が8割台半ば近くとなっている。（図2-12-2）

(13) こころの問題を気軽に相談できる場所・窓口について

◎「知っている」が5割台半ば近く

問14 あなたは、こころの問題（ストレスや病気など）について気軽に相談できる場所・窓口を知っていますか。（〇は1つ）		(n=894)
1	知っている	54.8%
2	知らない	43.1
	無回答	2.1

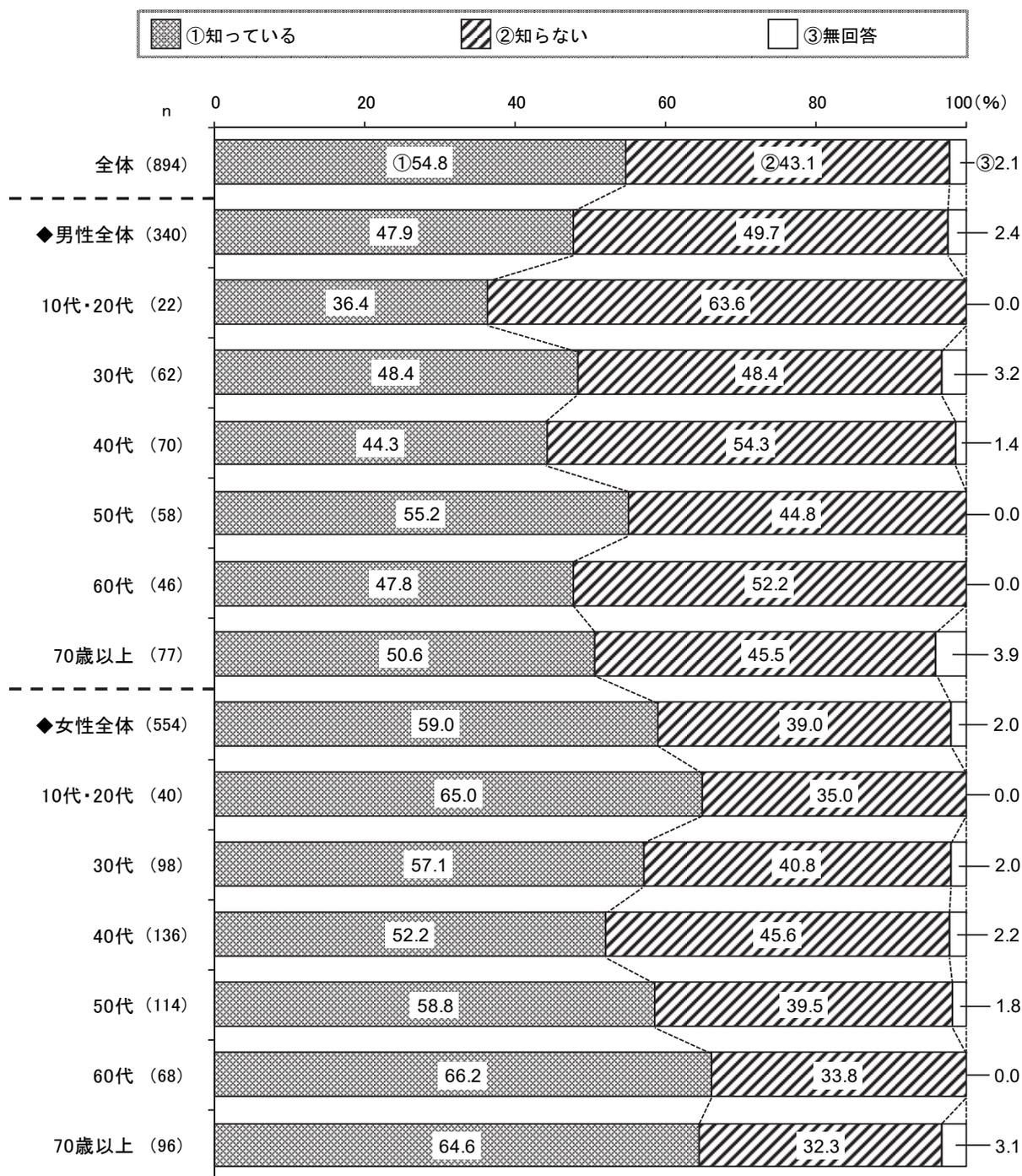
図2-13-1 こころの問題を気軽に相談できる場所・窓口について
(経年推移)



こころの問題を気軽に相談できる場所・窓口について、「知っている」(54.8%)が5割台半ば近く、「知らない」(43.1%)が4割台半ば近くとなっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、割合に大きな変化はみられない。(図2-13-1)

図2-13-2 こころの問題を気軽に相談できる場所・窓口について
（性別・性／年代別）



性別でみると、「知っている」は女性（59.0%）が6割弱と、男性（47.9%）を11.1ポイント上回っている。

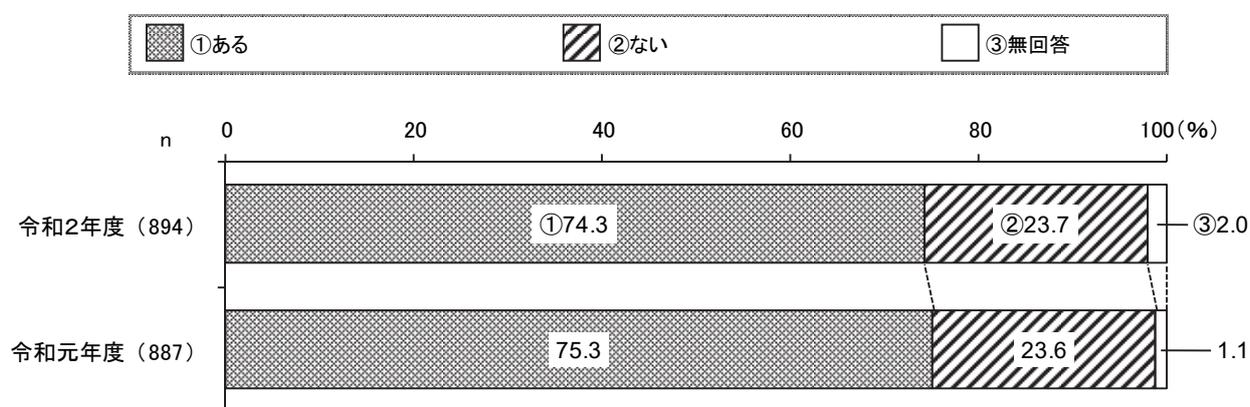
性／年代別でみると、「知っている」は女性の60代（66.2%）が6割台半ばを超えて最も高く、次いで女性の10代・20代（65.0%）が6割台半ば、女性の70歳以上（64.6%）が6割台半ば近くとなっている。（図2-13-2）

(14) かかりつけ歯科医の有無

◎「ある」が7割台半ば近く

問15 あなたには、かかりつけ歯科医がありますか。(〇は1つ)		(n=894)
1	ある	74.3%
2	ない	23.7
	無回答	2.0

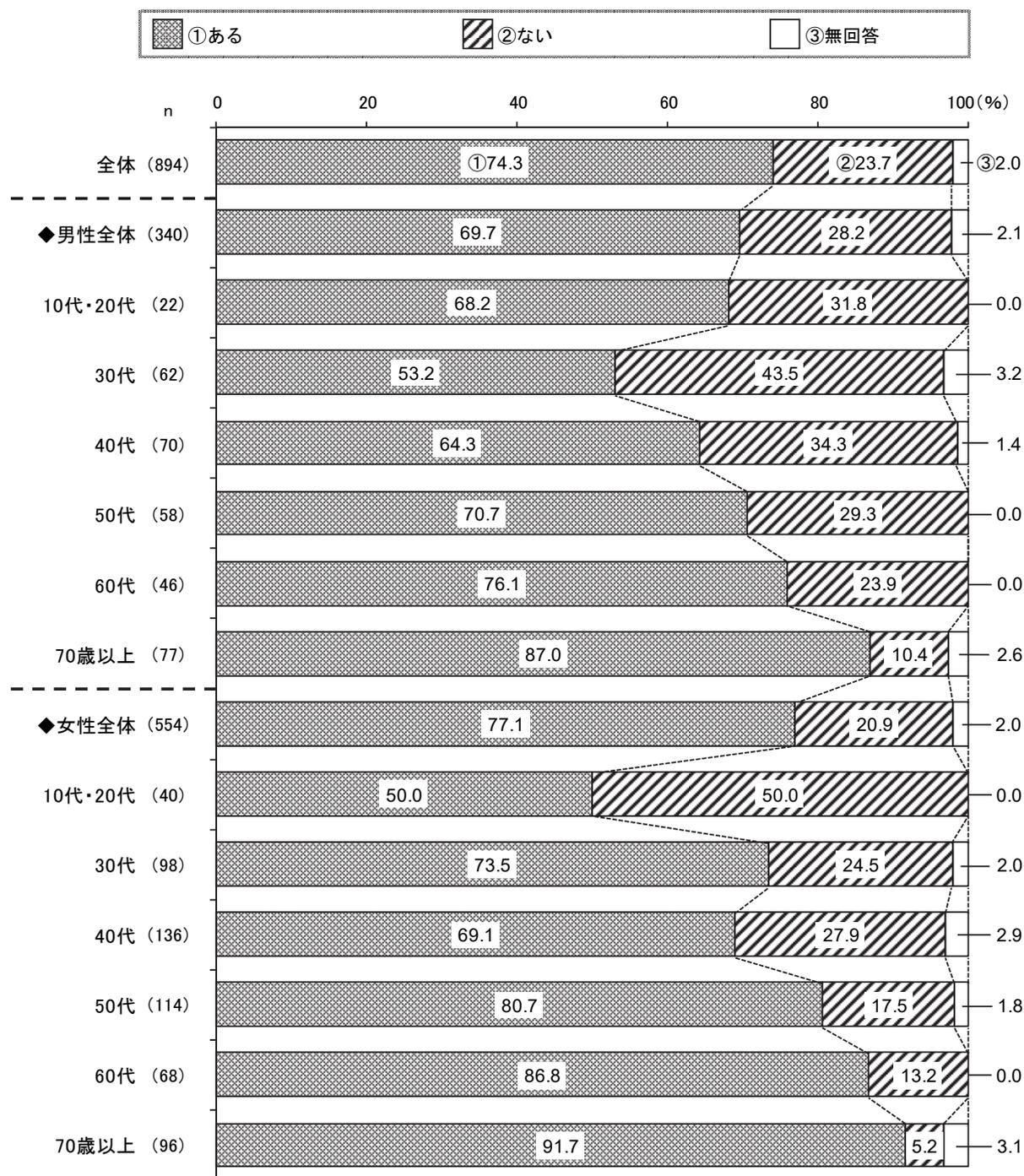
図2-14-1 かかりつけ歯科医の有無
(経年推移)



かかりつけ歯科医の有無は、「ある」(74.3%)が7割台半ば近く、「ない」(23.7%)が2割台半ば近くとなっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、割合に大きな変化はみられない。(図2-14-1)

図2-14-2 かかりつけ歯科医の有無
（性別・性／年代別）



性別で見ると、「ある」は女性（77.1%）が7割台半ばを超え、男性（69.7%）を7.4ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「ない」は女性の10代・20代（50.0%）が5割で最も高くなっており、全体（23.7%）を26.3ポイント上回っている。（図2-14-2）

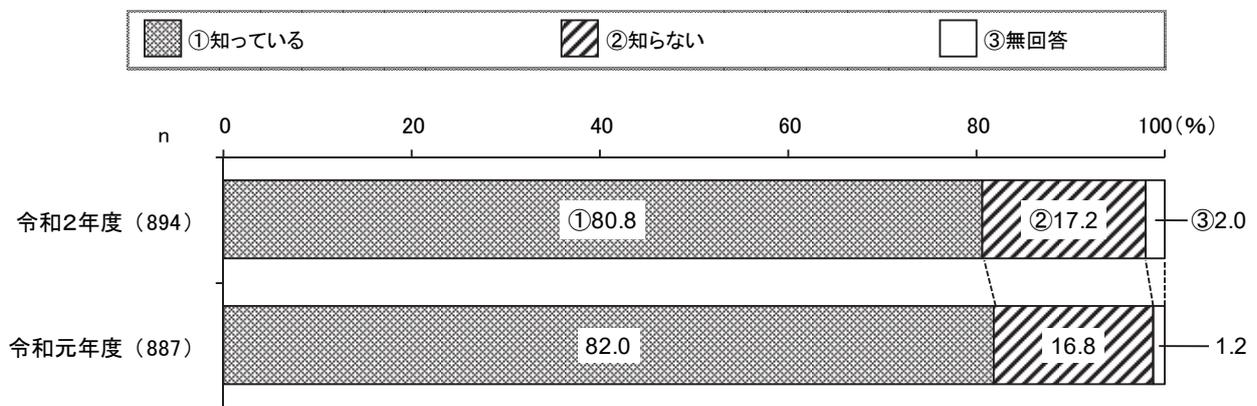
(15) 5つの生活習慣に気をつけるとがんになるリスクが大幅に低下すること

◎「知っている」が約8割

問16 あなたは、「禁煙」「節酒」「食生活」「身体活動」「適正体重の維持」の5つの生活習慣に気をつけて生活するとがんになるリスクが大幅に低下することを知っていますか。
(○は1つ)

	(n=894)
1 知っている	80.8%
2 知らない	17.2
無回答	2.0

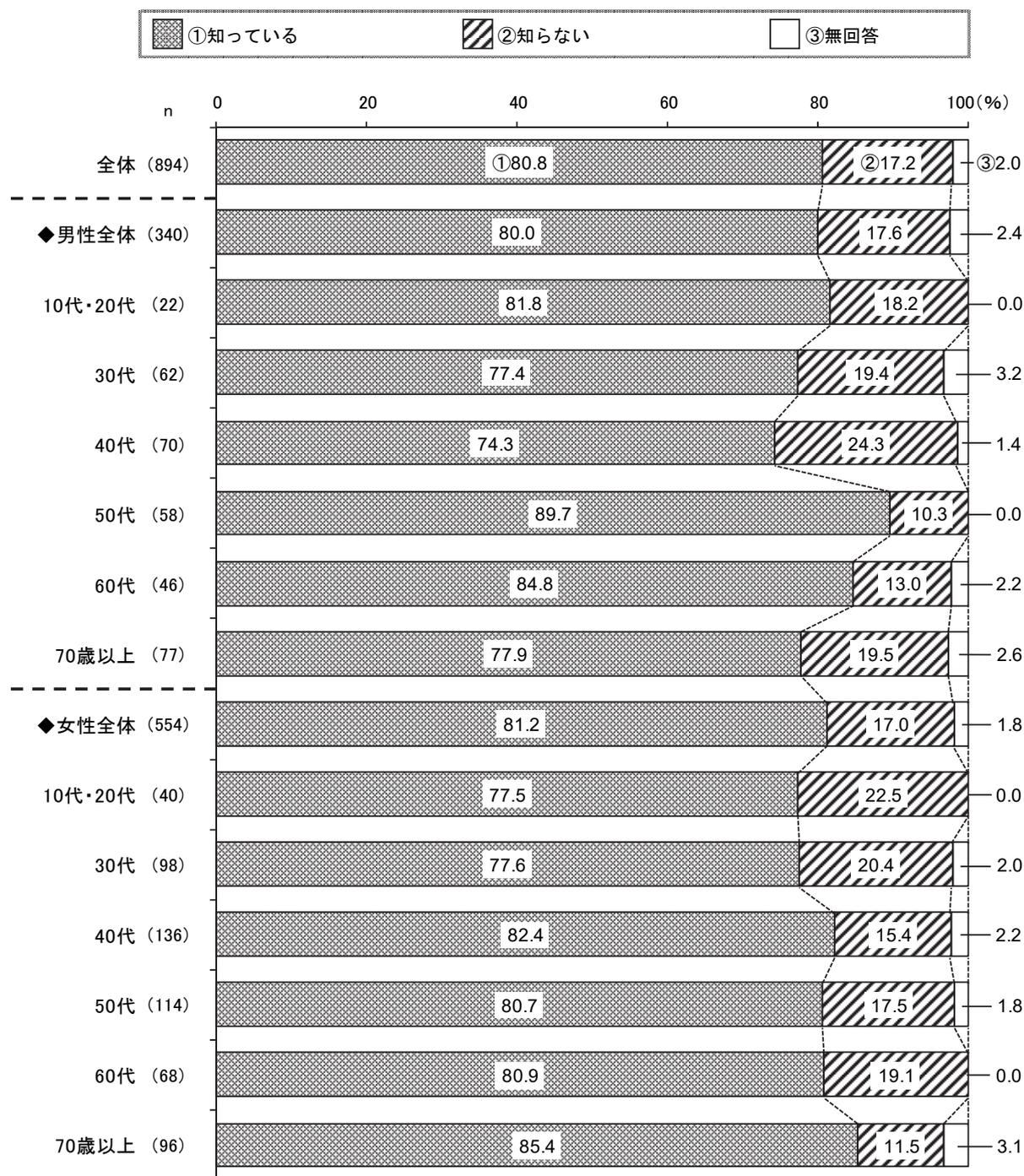
図2-15-1 5つの生活習慣に気をつけるとがんになるリスクが大幅に低下すること
(経年推移)



5つの生活習慣に気をつけるとがんになるリスクが大幅に低下することは、「知っている」(80.8%)が約8割となっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、割合に大きな変化はみられない。(図2-15-1)

図2-15-2 5つの生活習慣に気をつけるとがんになるリスクが大幅に低下すること
（性別・性／年代別）



性別で見ると、男女の割合に大きな差はみられない。

性／年代別で見ると、「知っている」は、男性の50代（89.7%）が9割弱で最も高くなっており、全体（80.8%）を8.9ポイント上回っている。（図2-15-2）

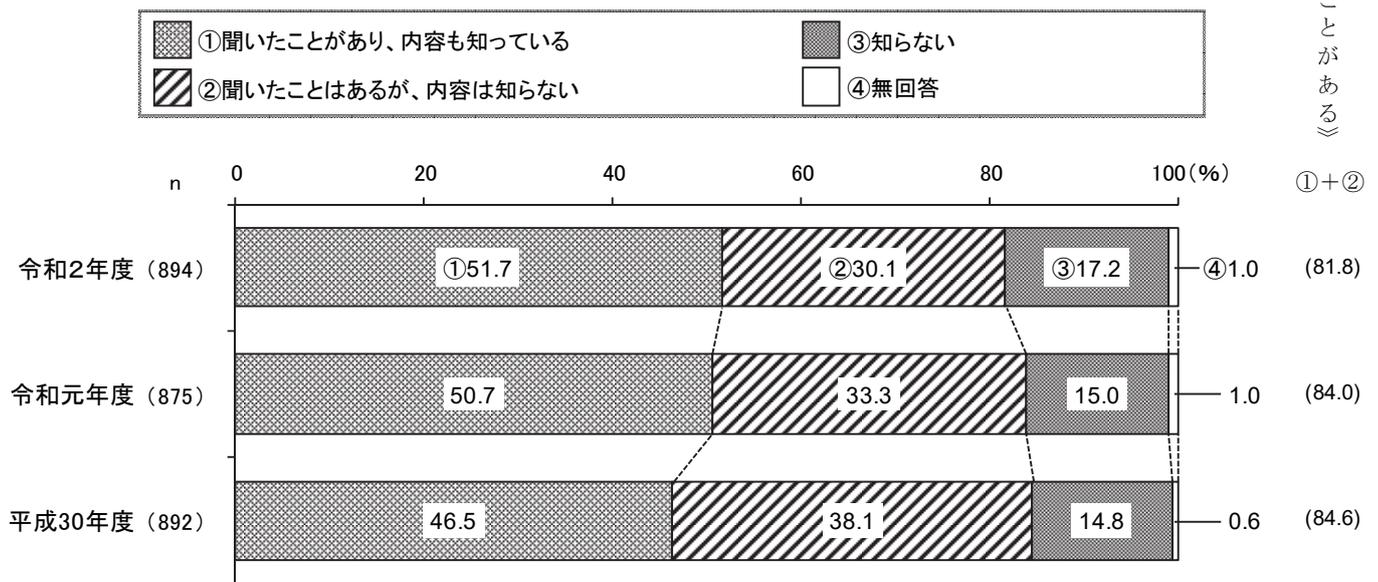
テーマ3 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度

◎「聞いたことがあり、内容も知っている」が5割強

問17 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(〇は1つ)		(n=894)
1	聞いたことがあり、内容も知っている	51.7%
2	聞いたことはあるが、内容は知らない	30.1
3	知らない	17.2
	無回答	1.0

図3-1-1 成年後見制度の認知度
(経年推移)



成年後見制度の認知度は、「聞いたことがあり、内容も知っている」(51.7%)が5割強、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(30.1%)が約3割、「知らない」(17.2%)が1割台半ばを超えとなっている。

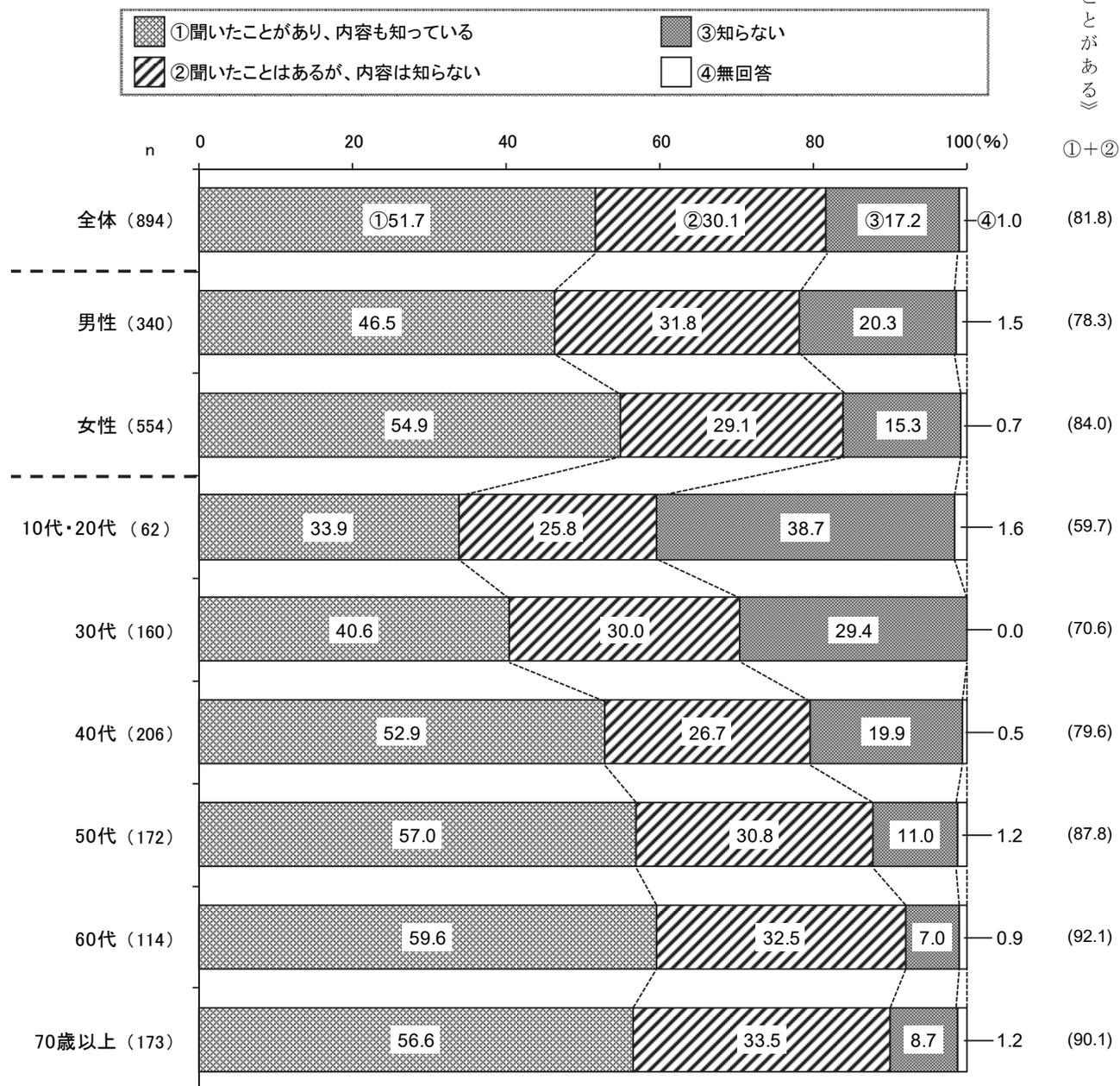
「聞いたことがあり、内容も知っている」と「聞いたことはあるが、内容は知らない」を合わせた《聞いたことがある》(81.8%)は8割強となっている。

過去3年間の経年推移をみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」(51.7%)は、年々その割合が高くなっており、平成30年度(46.5%)より5.2ポイント高くなっている。

(図3-1-1)

図3-1-2 成年後見制度の認知度
（性別・年代別）

《聞いたことがある》



性別で見ると、《聞いたことがある》は女性（84.0%）が8割台半ば近くと、男性（78.3%）を5.7ポイント上回っている。

年代別で見ると、「知らない」は10代・20代（38.7%）が4割近くと、全体（17.2%）を21.5ポイント上回っている。（図3-1-2）

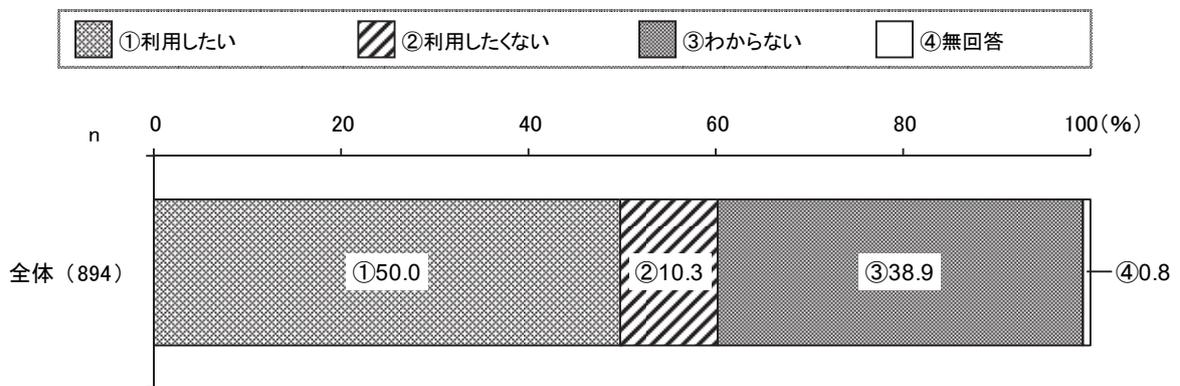
(2) 成年後見制度の利用意向

◎成年後見制度を「利用したい」が5割

問18 あなたは、あなた自身や家族・親族が、認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いませんか。(〇は1つ)

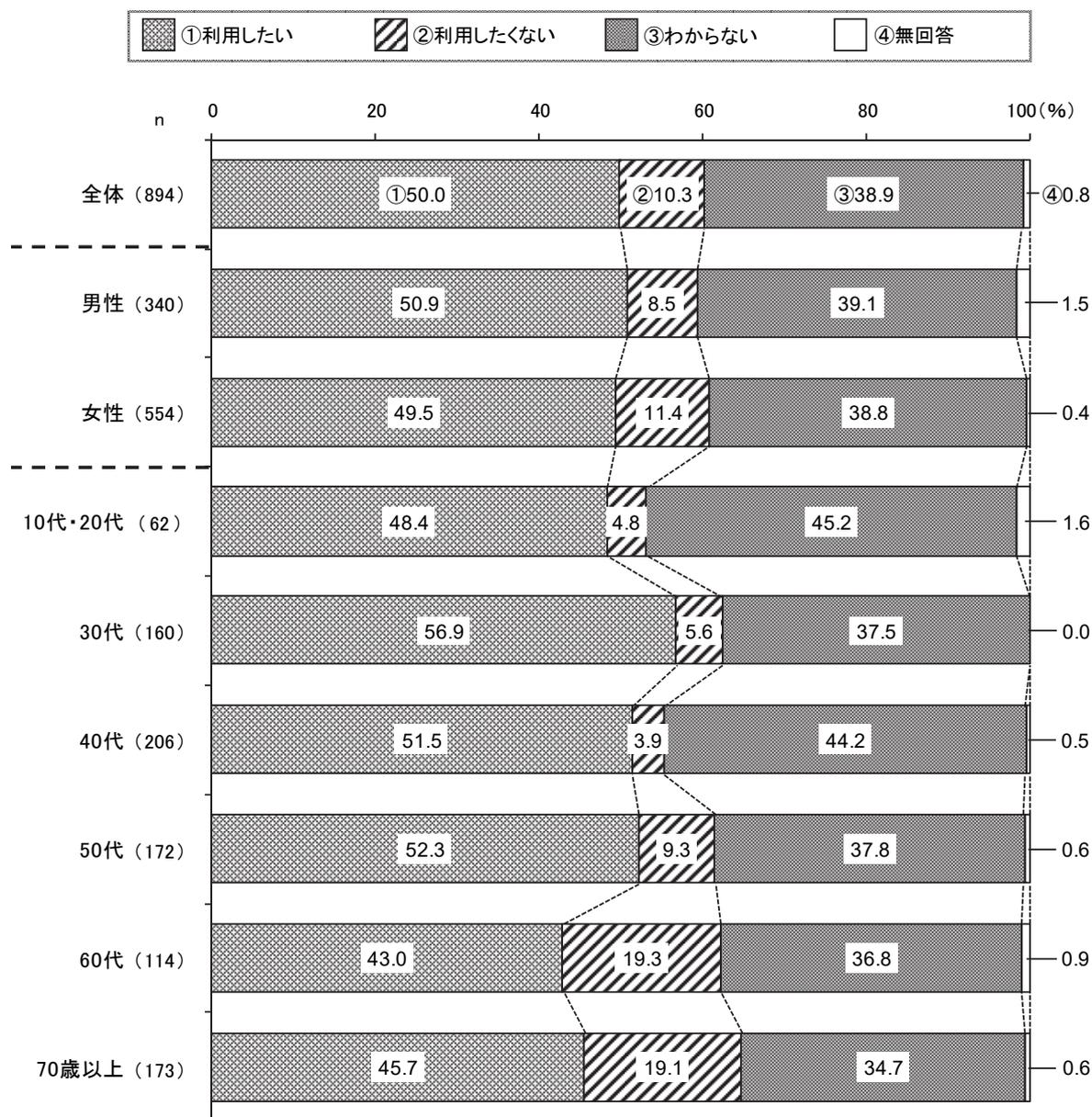
	(n=894)
1 利用したい	50.0%
2 利用したくない	10.3
3 わからない	38.9
無回答	0.8

図3-2-1 成年後見制度の利用意向



成年後見制度の利用意向は、「利用したい」(50.0%)が5割、「利用したくない」(10.3%)が約1割、「わからない」(38.9%)が4割近くとなっている。(図3-2-1)

図3-2-2 成年後見制度の利用意向
(性別・年代別)



性別で見ると、「利用したくない」は女性（11.4%）が1割強と、男性（8.5%）を2.9ポイント上回っている。

年代別で見ると、「利用したくない」は60代（19.3%）が2割弱で最も高く、次いで70歳以上（19.1%）が2割弱となっている。（図3-2-2）

(3) 後見人になってほしい人

◎後見人になってほしい人は「家族・親族」が8割弱

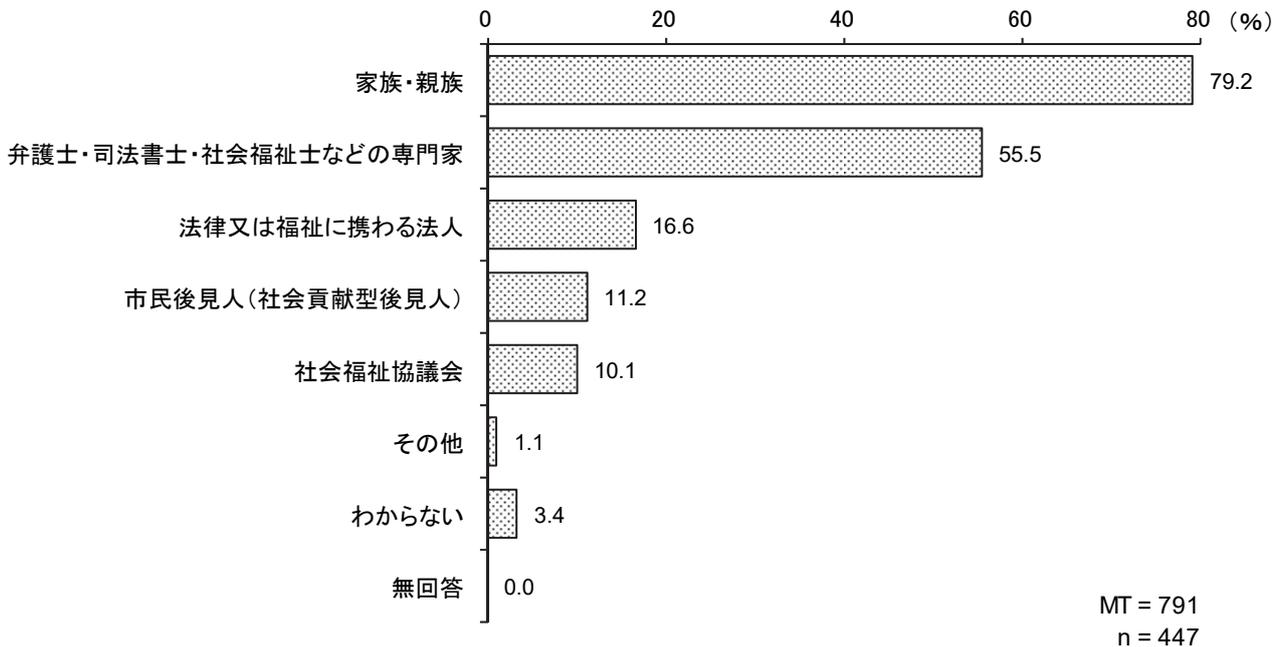
問18-1 問18で、「1」に○をした方にお伺いします。

成年後見制度を利用する際、どのような人に成年後見人等になってほしいと思いますか。すでに利用している人もお答えください。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

	(n=447)
1 家族・親族	79.2%
2 弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門家	55.5
3 市民後見人(社会貢献型後見人)	11.2
4 社会福祉協議会	10.1
5 法律又は福祉に携わる法人	16.6
6 その他	1.1
7 わからない	3.4
無回答	0.0

図3-3 後見人になってほしい人



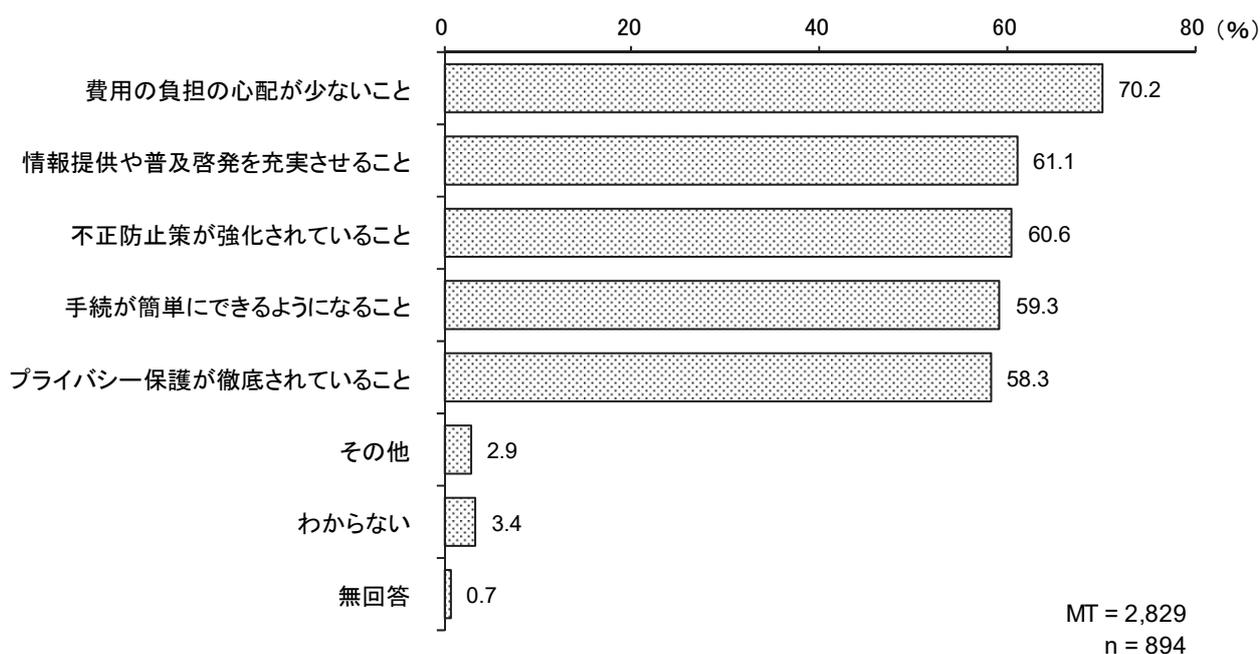
後見人になってほしい人は、「家族・親族」(79.2%)が8割弱で最も高く、次いで「弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門家」(55.5%)が5割台半ばと続いている。(図3-3)

（４）成年後見制度が利用されるために必要なこと

◎「費用の負担の心配が少ないこと」が約7割

問19 あなたは、成年後見制度がより多くの人に利用されるために、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものにもいくつでも○をつけてください）		(n=894)
1	情報提供や普及啓発を充実させること	61.1%
2	費用の負担の心配が少ないこと	70.2
3	プライバシー保護が徹底されていること	58.3
4	手続きが簡単にできるようになること	59.3
5	不正防止策が強化されていること	60.6
6	その他	2.9
7	わからない	3.4
	無回答	0.7

図3-4 成年後見制度が利用されるために必要なこと



成年後見制度が利用されるために必要なことは、「費用の負担の心配が少ないこと」（70.2%）が約7割で最も高く、次いで「情報提供や普及啓発を充実させること」（61.1%）が6割強、「不正防止策が強化されていること」（60.6%）が約6割、「手続きが簡単にできるようになること」（59.3%）が6割弱、「プライバシー保護が徹底されていること」（58.3%）が6割近くとなっている。（図3-4）

(5) 成年後見制度に関する周知方法

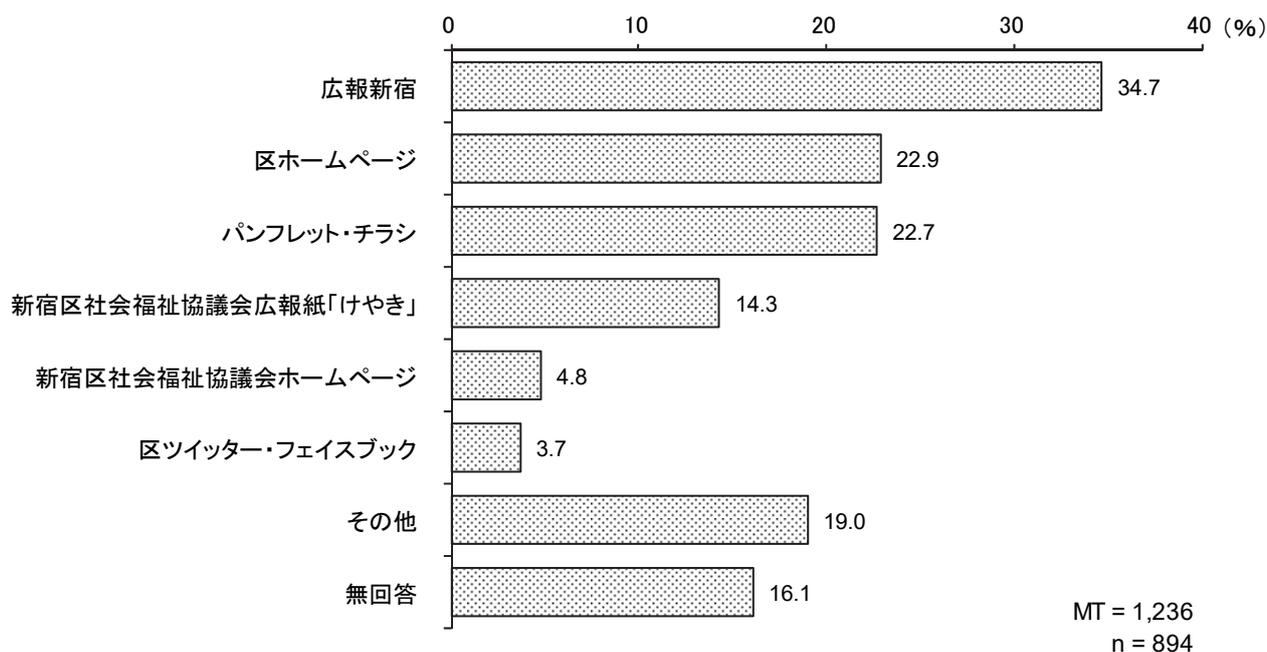
◎「広報新宿」が3割台半ば近く

問20 現在、成年後見制度に関する周知方法として、知っているものは何ですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

	(n=894)
1 広報新宿	34.7%
2 パンフレット・チラシ	22.7
3 新宿区社会福祉協議会広報紙「けやき」	14.3
4 区ホームページ	22.9
5 新宿区社会福祉協議会ホームページ	4.8
6 区ツイッター・フェイスブック	3.7
7 その他	19.0
無回答	16.1

図3-5 成年後見制度に関する周知方法



成年後見制度に関する周知方法は、「広報新宿」(34.7%)が3割台半ば近くで最も高く、次いで「区ホームページ」(22.9%)が2割強、「パンフレット・チラシ」(22.7%)が2割強と続いている。(図3-5)

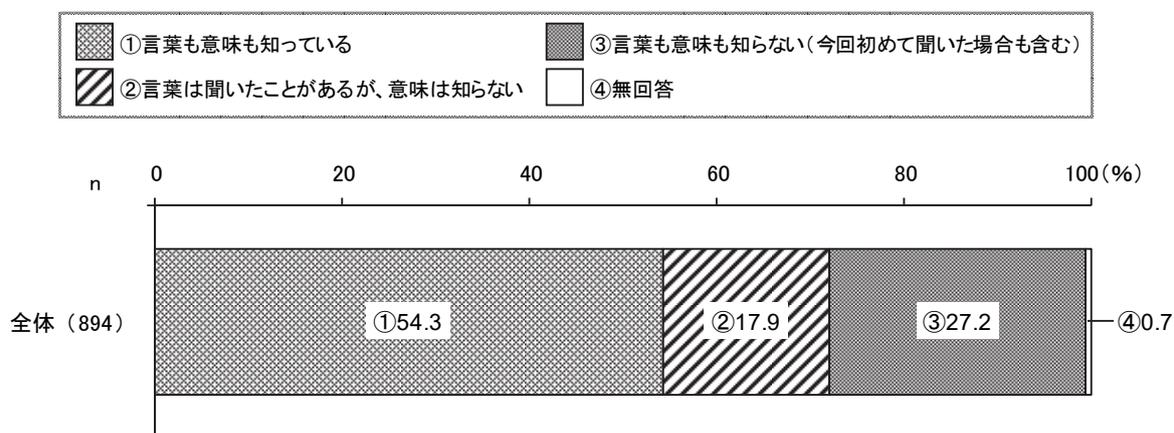
テーマ4 ユニバーサルデザインについて

（1）ユニバーサルデザインの認知状況

◎ユニバーサルデザインを「言葉も意味も知っている」が5割台半ば近く

問2 1 「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)		(n=894)
1	言葉も意味も知っている	54.3%
2	言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない	17.9
3	言葉も意味も知らない(今回初めて聞いた場合も含む)	27.2
	無回答	0.7

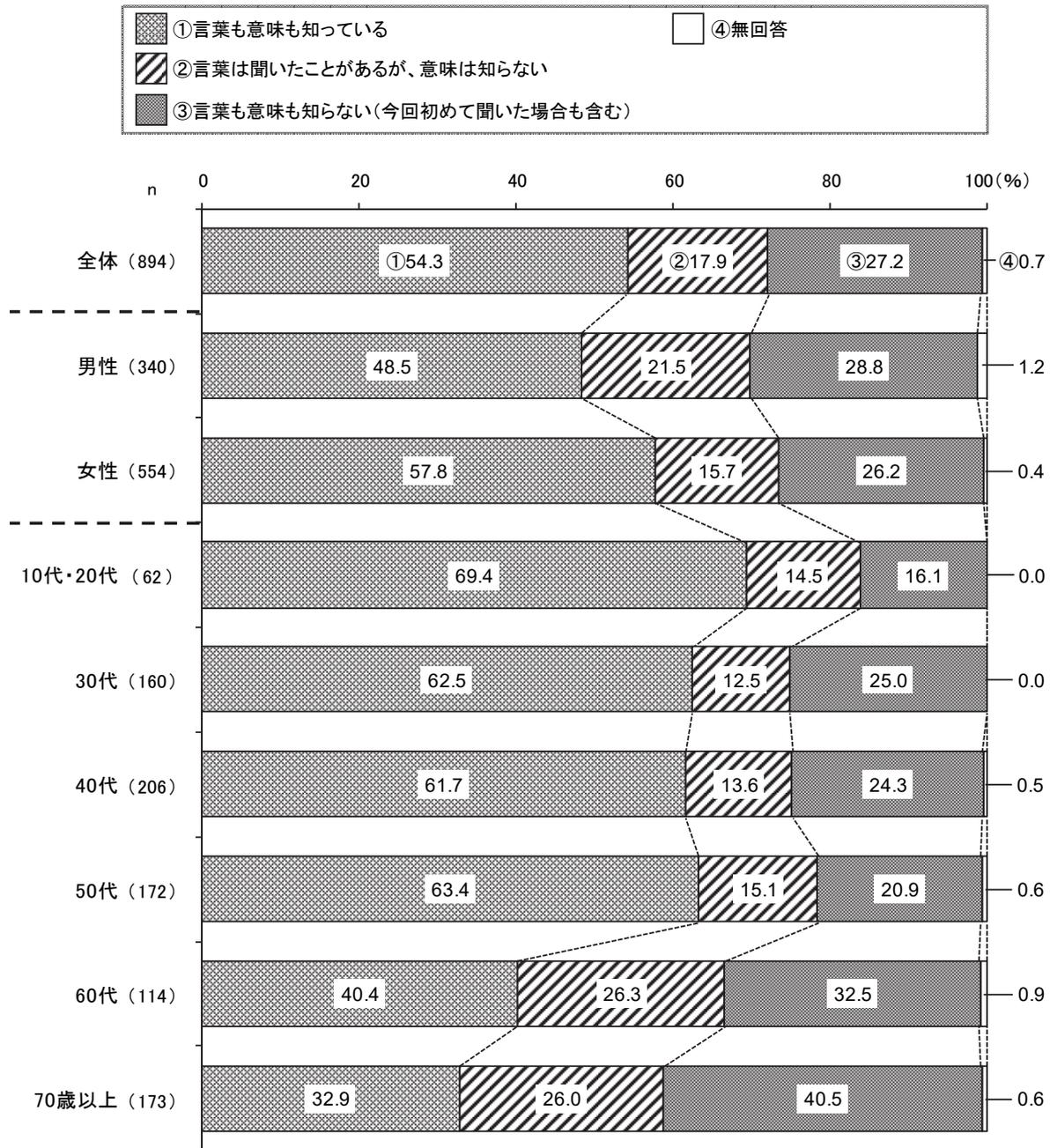
図4-1-1 ユニバーサルデザインの認知状況



ユニバーサルデザインの認知状況は、「言葉も意味も知っている」(54.3%)が5割台半ば近く、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」(17.9%)が1割台半ばを超え、「言葉も意味も知らない(今回初めて聞いた場合も含む)」(27.2%)が2割台半ばを超えとなっている。

(図4-1-1)

図4-1-2 ユニバーサルデザインの認知状況
(性別・年代別)



性別で見ると、「言葉も意味も知っている」は女性(57.8%)が5割台半ばを超え、男性(48.5%)を9.3ポイント上回っている。

年代別で見ると、「言葉も意味も知っている」では、10代・20代(69.4%)が7割弱と、全体(54.3%)を15.1ポイント上回っている。(図4-1-2)

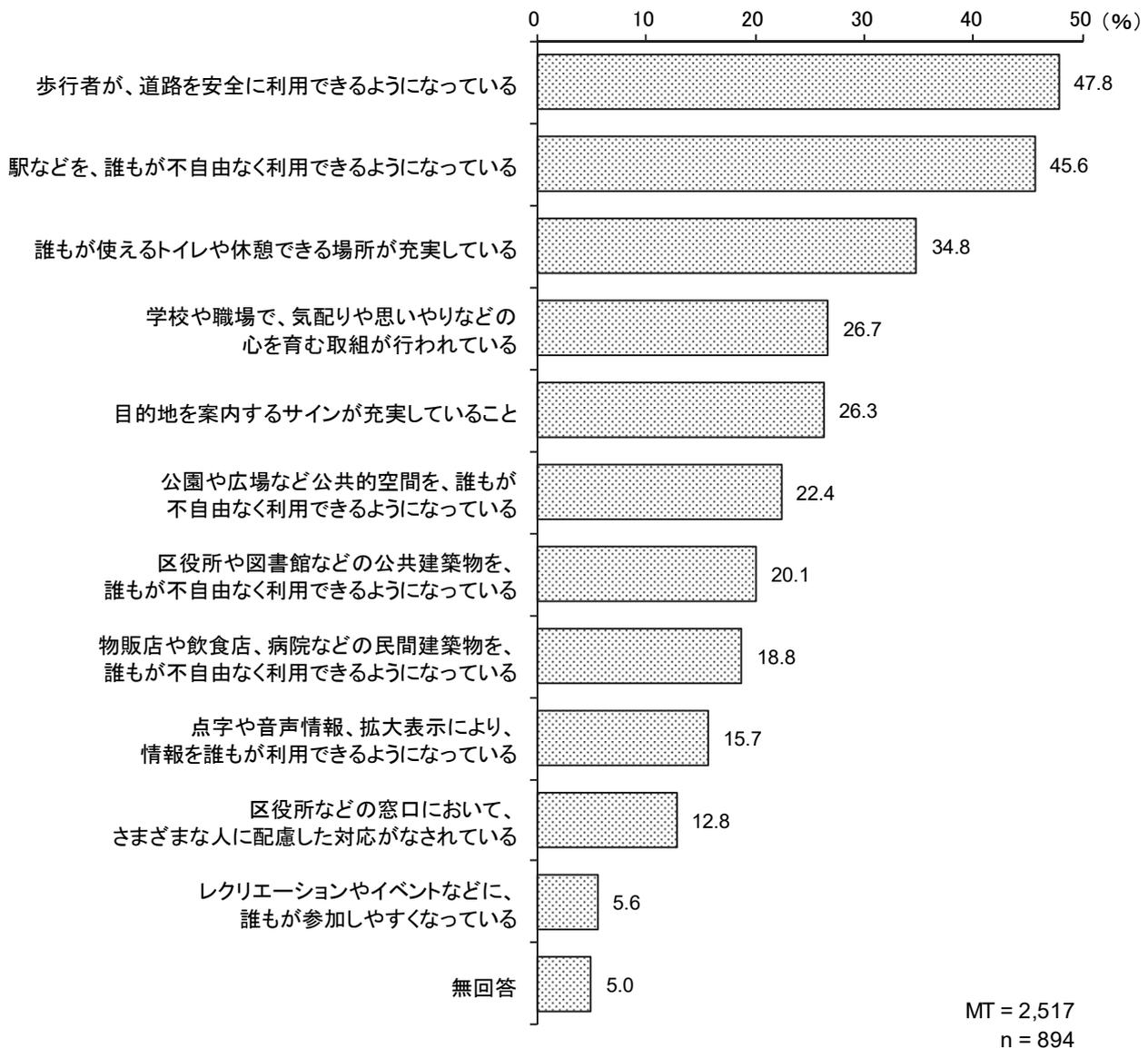
Ⅱ 調査の結果（テーマ4 ユニバーサルデザインについて）

（2）ユニバーサルデザインのまちづくりで取り組んでほしいこと

◎「歩行者が、道路を安全に利用できるようになっている」が4割台半ばを超え

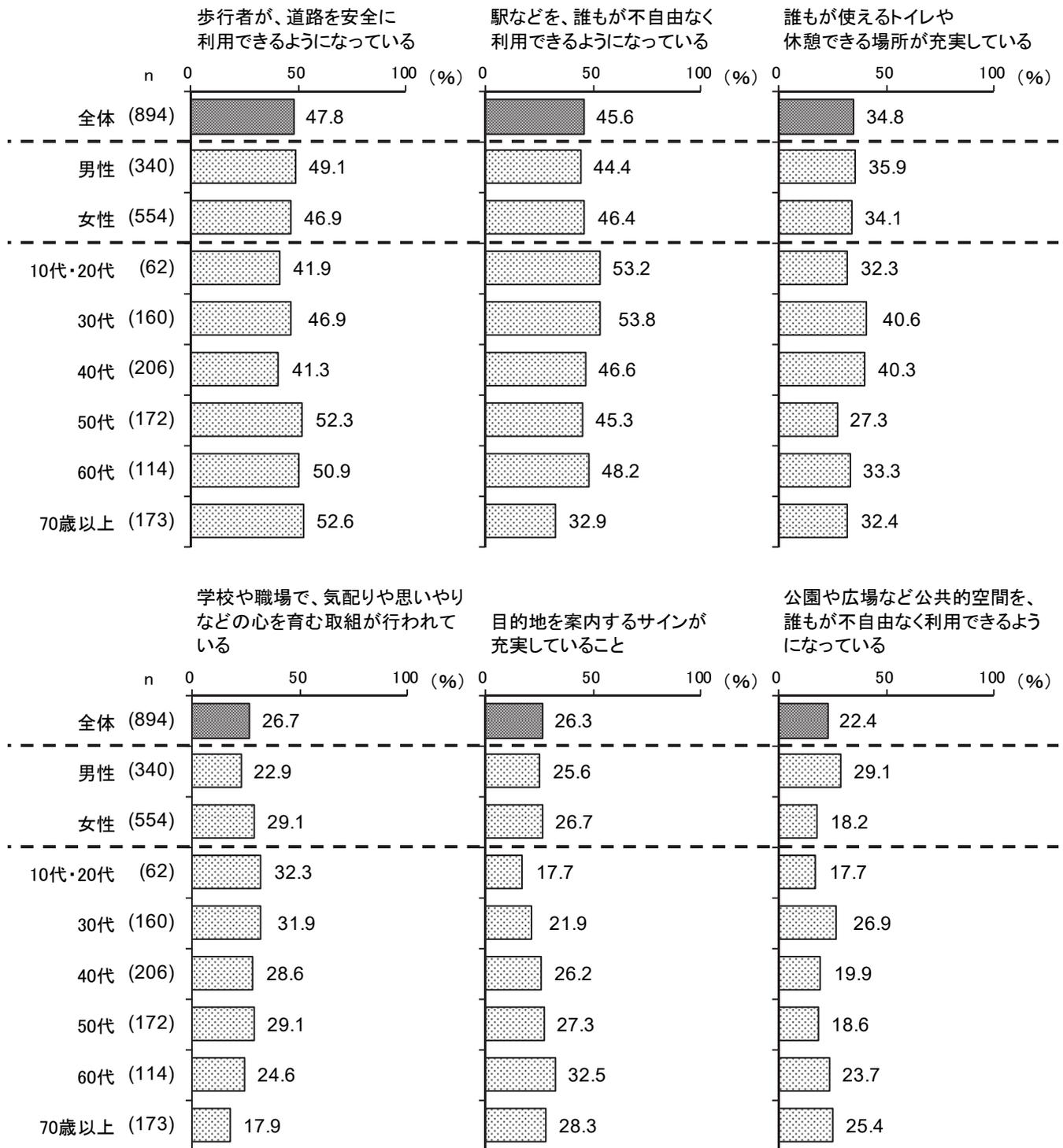
問2 2 今後、ユニバーサルデザインのまちづくりを進めていくうえで、特に取り組んでほしいと思う上位3項目は何ですか。（あてはまるものに3つまで○をつけてください）	
	(n=894)
1 歩行者が、道路を安全に利用できるようになっている	47.8%
2 駅などを、誰もが不自由なく利用できるようになっている	45.6
3 公園や広場など公共的空間を、誰もが不自由なく利用できるようになっている	22.4
4 目的地を案内するサインが充実していること	26.3
5 区役所や図書館などの公共建築物を、誰もが不自由なく利用できるようになっている	20.1
6 物販店や飲食店、病院などの民間建築物を、誰もが不自由なく利用できるようになっている	18.8
7 誰もが使えるトイレや休憩できる場所が充実している	34.8
8 点字や音声情報、拡大表示により、情報を誰もが利用できるようになっている	15.7
9 区役所などの窓口において、さまざまな人に配慮した対応がなされている	12.8
10 レクリエーションやイベントなどに、誰もが参加しやすくなっている	5.6
11 学校や職場で、気配りや思いやりなどの心を育む取組が行われている	26.7
無回答	5.0

図4-2-1 ユニバーサルデザインのまちづくりで取り組んでほしいこと



ユニバーサルデザインのまちづくりで取り組んでほしいことは、「歩行者が、道路を安全に利用できるになっている」(47.8%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「駅などを、誰もが不自由なく利用できるになっている」(45.6%)が4割台半ば、「誰もが使えるトイレや休憩できる場所が充実している」(34.8%)が3割台半ば近く、「学校や職場で、気配りや思いやりなどの心を育む取組が行われている」(26.7%)が2割台半ばを超え、「目的地を案内するサインが充実していること」(26.3%)が2割台半ばを超え、「公園や広場など公共的空間を、誰もが不自由なく利用できるになっている」(22.4%)が2割強となっている。(図4-2-1)

図4-2-2 ユニバーサルデザインのまちづくりで取り組んでほしいこと
（性別・年代別）上位6項目



上位6項目について、性別でみると、「公園や広場など公共的空間を、誰もが不自由なく利用できるようになっている」は男性（29.1%）が3割弱と、女性（18.2%）を10.9ポイント上回っている。

年代別でみると、「駅などを、誰もが不自由なく利用できるようになっている」では、30代（53.8%）が5割台半ば近くで最も高く、次いで10代・20代（53.2%）が5割台半ば近くとなっている。

（図4-2-2）

(3) ユニバーサルデザインについて、重要だと思うもの

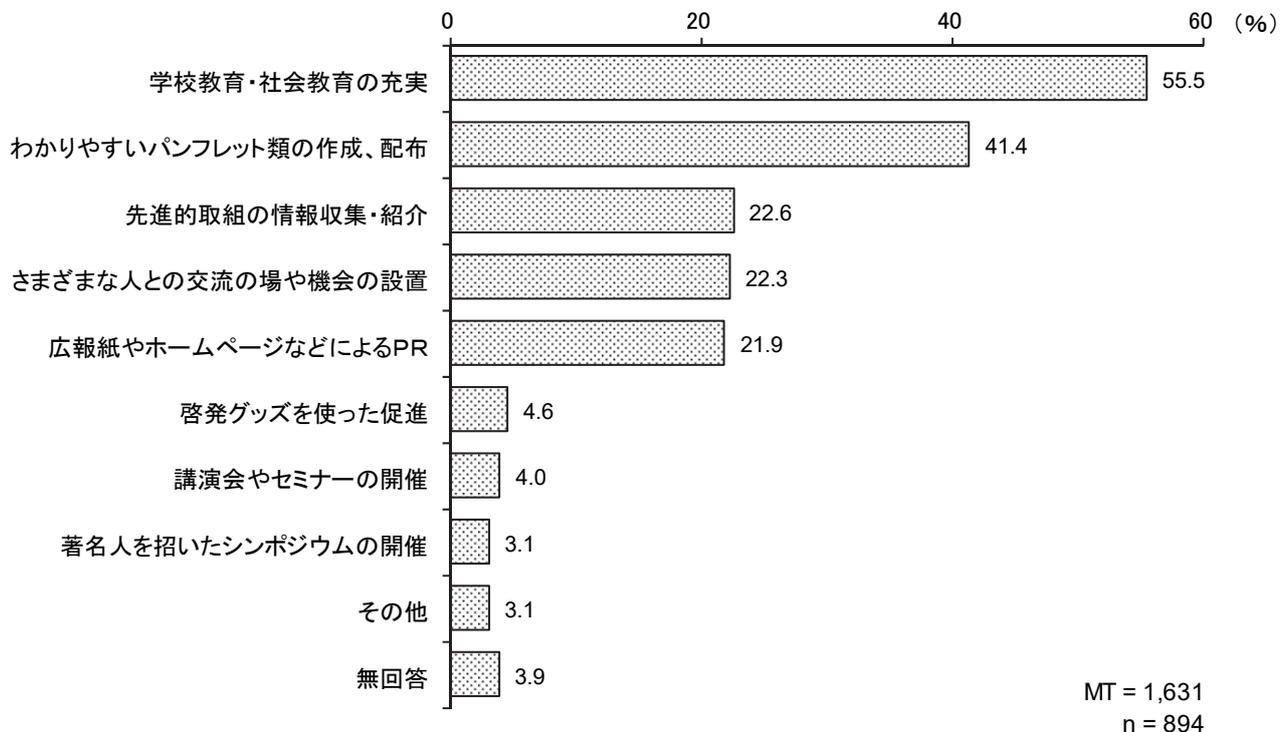
◎「学校教育・社会教育の充実」が5割台半ば

問23 ユニバーサルデザインについて、あなたが重要だと思うものは何ですか。

(あてはまるものに2つまで○をつけてください)

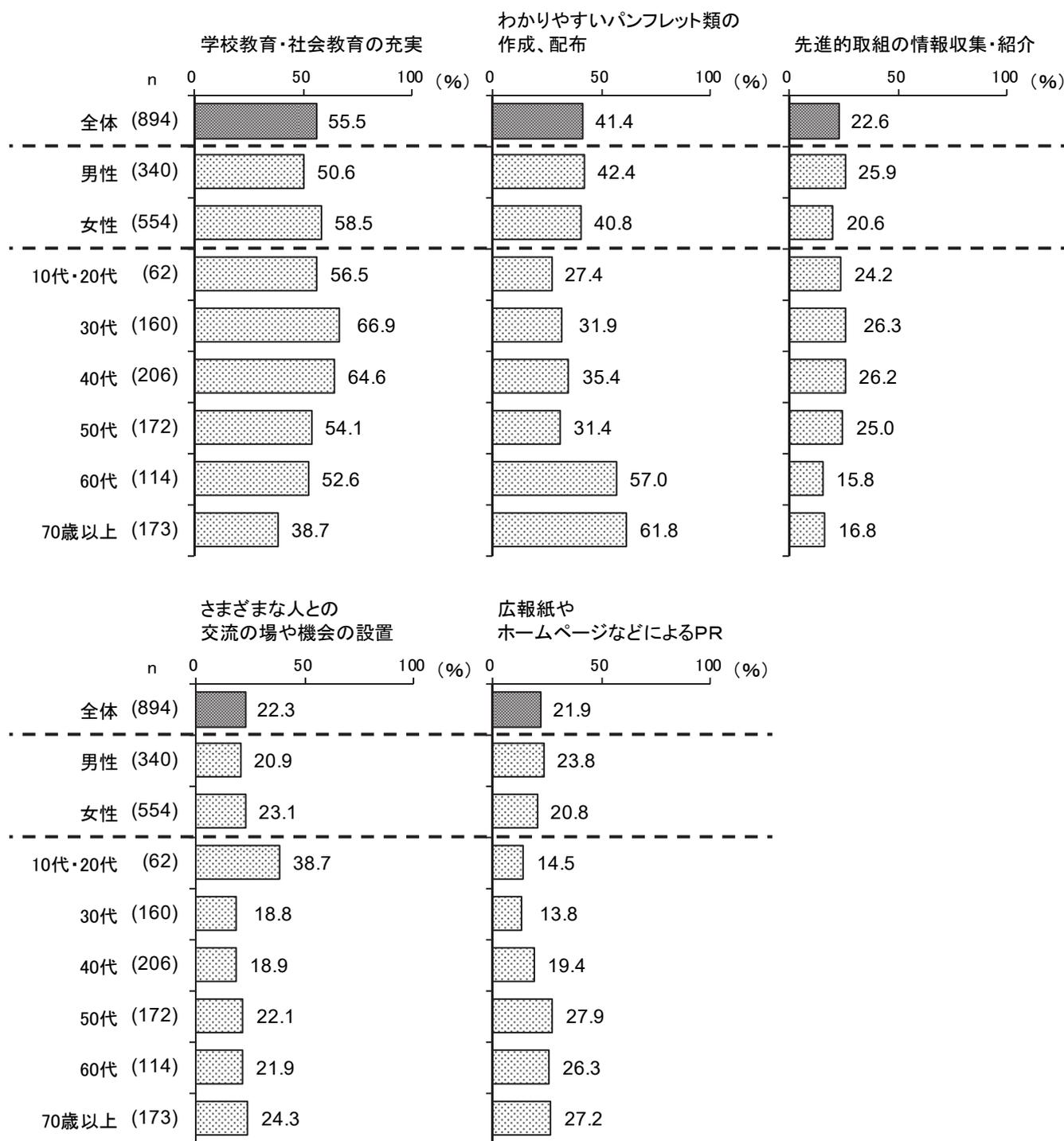
	(n=894)
1 わかりやすいパンフレット類の作成、配布	41.4%
2 講演会やセミナーの開催	4.0
3 学校教育・社会教育の充実	55.5
4 先進的取組の情報収集・紹介	22.6
5 さまざまな人との交流の場や機会の設置	22.3
6 広報紙やホームページなどによるPR	21.9
7 啓発グッズを使った促進	4.6
8 著名人を招いたシンポジウムの開催	3.1
9 その他	3.1
無回答	3.9

図4-3-1 ユニバーサルデザインについて、重要だと思うもの



ユニバーサルデザインについて、重要だと思うものは、「学校教育・社会教育の充実」(55.5%)が5割台半ばで最も高く、次いで「わかりやすいパンフレット類の作成、配布」(41.4%)が4割強、「先進的取組の情報収集・紹介」(22.6%)が2割強、「さまざまな人との交流の場や機会の設置」(22.3%)が2割強、「広報紙やホームページなどによるPR」(21.9%)が2割強となっている。(図4-3-1)

図4-3-2 ユニバーサルデザインについて、重要だと思うもの
（性別・年代別）上位5項目



上位5項目について、性別で見ると、「学校教育・社会教育の充実」は女性（58.5%）が6割近くと、男性（50.6%）を7.9ポイント上回っている。

年代別で見ると、「わかりやすいパンフレット類の作成、配布」では、70歳以上（61.8%）が6割強と、全体（41.4%）を20.4ポイント上回っている。「さまざまな人との交流の場や機会の設置」では、10代・20代（38.7%）が4割近くと、全体（22.3%）を16.4ポイント上回っている。（図4-3-2）

(4) ユニバーサルデザインについて区に期待すること

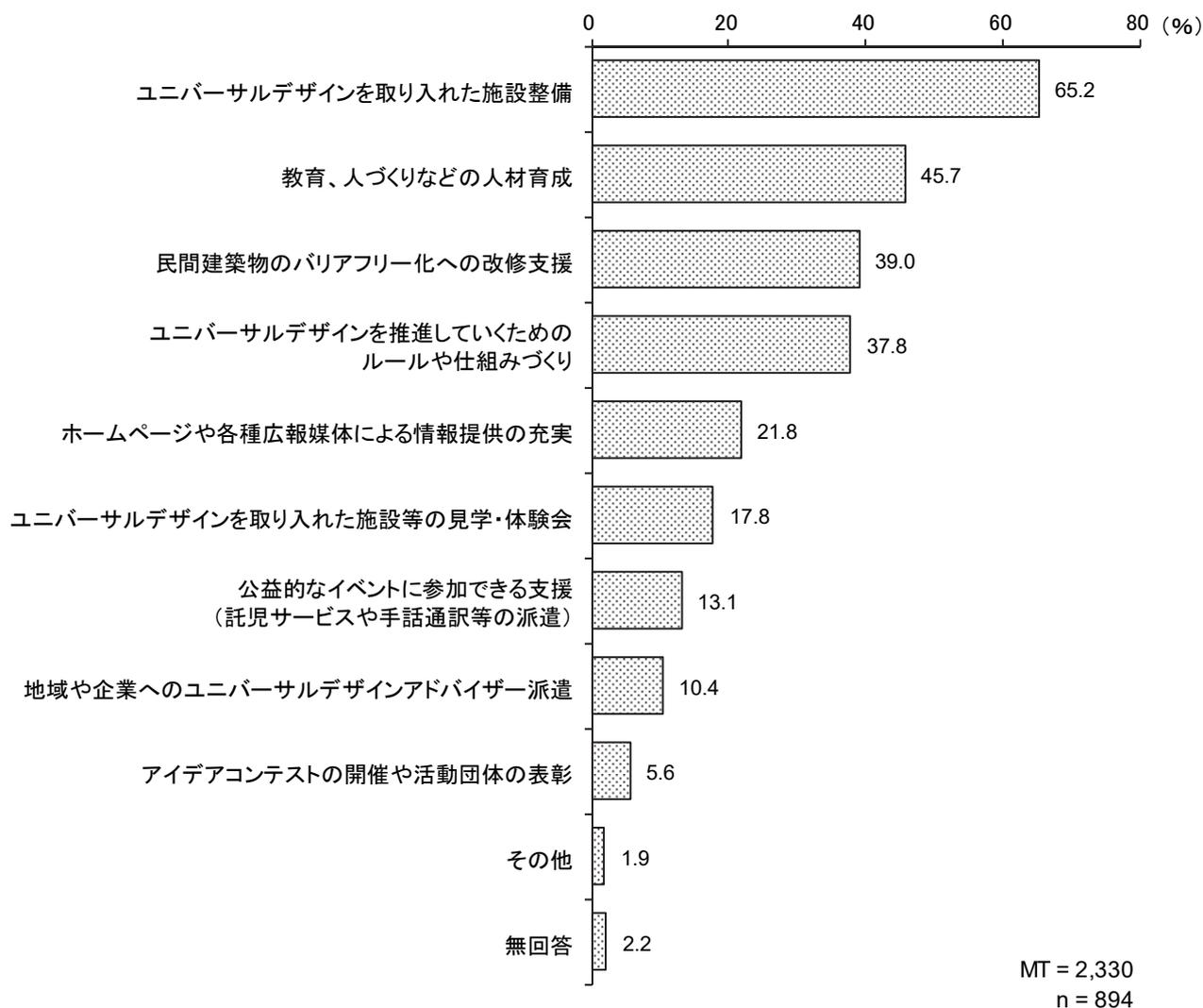
◎「ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備」が6割台半ば

問24 ユニバーサルデザインについて、あなたが区に期待することは何ですか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

	(n=894)
1 ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備	65.2%
2 教育、人づくりなどの人材育成	45.7
3 民間建築物のバリアフリー化への改修支援	39.0
4 ユニバーサルデザインを推進していくためのルールや仕組みづくり	37.8
5 ホームページや各種広報媒体による情報提供の充実	21.8
6 アイデアコンテストの開催や活動団体の表彰	5.6
7 ユニバーサルデザインを取り入れた施設等の見学・体験会	17.8
8 地域や企業へのユニバーサルデザインアドバイザー派遣	10.4
9 公益的なイベントに参加できる支援（託児サービスや手話通訳等の派遣）	13.1
10 その他	1.9
無回答	2.2

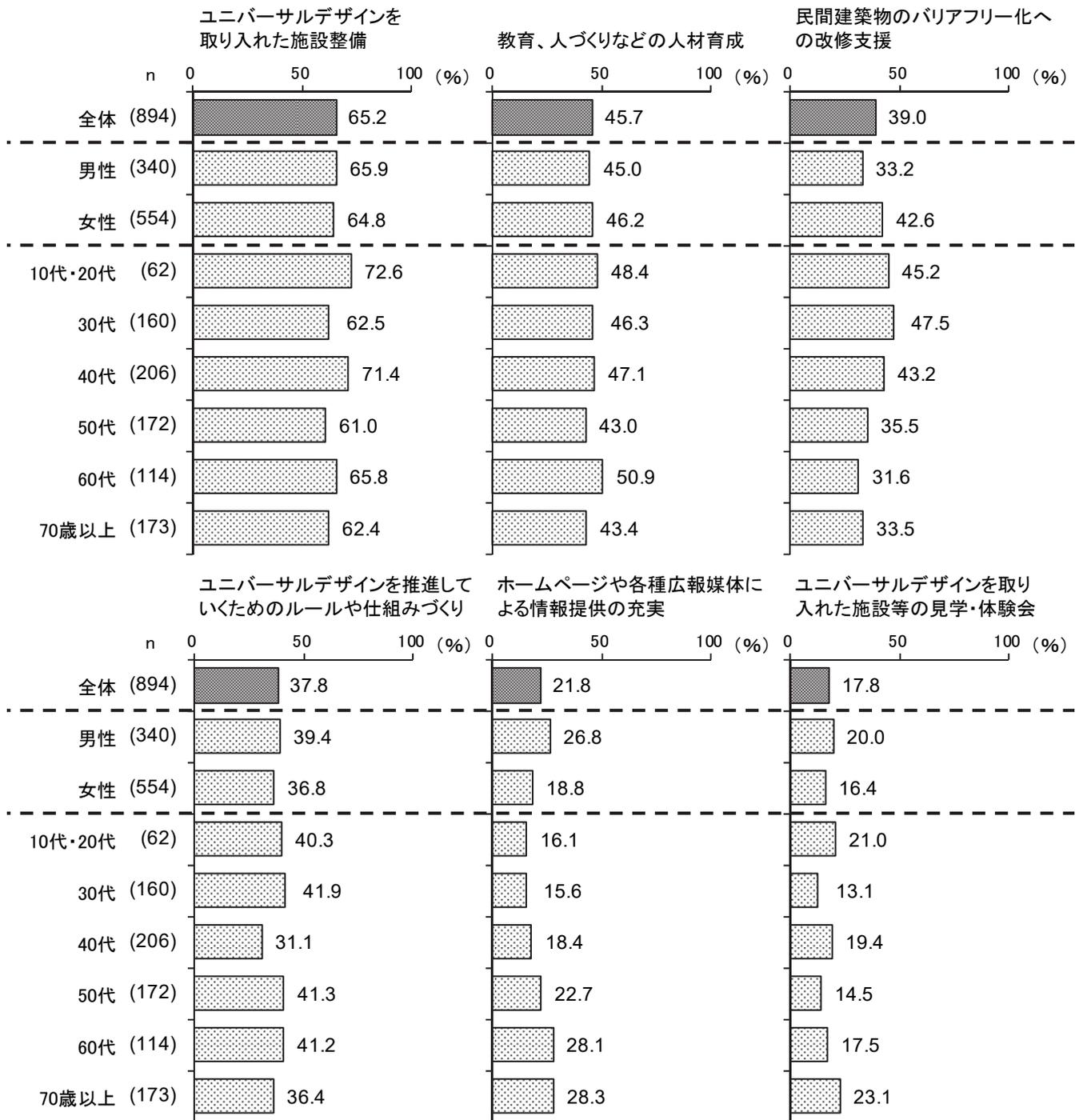
図4-4-1 ユニバーサルデザインについて区に期待すること



ユニバーサルデザインについて区に期待することは、「ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備」(65.2%)が6割台半ばで最も高く、次いで「教育、人づくりなどの人材育成」(45.7%)が4割台半ば、「民間建築物のバリアフリー化への改修支援」(39.0%)が4割弱、「ユニバーサルデザインを推進していくためのルールや仕組みづくり」(37.8%)が3割台半ばを超え、「ホームページや各種広報媒体による情報提供の充実」(21.8%)が2割強と続いている。(図4-4-1)

図4-4-2 ユニバーサルデザインについて区に期待すること

(性別・年代別) 上位6項目



上位6項目について、性別で見ると、「民間建築物のバリアフリー化への改修支援」は女性(42.6%)が4割強と、男性(33.2%)を9.4ポイント上回っている。一方、「ホームページや各種広報媒体による情報提供の充実」は男性(26.8%)が2割台半ばを超え、女性(18.8%)を8.0ポイント上回っている。

年代別で見ると、「民間建築物のバリアフリー化への改修支援」では、30代(47.5%)が4割台半ばを超え、全体(39.0%)を8.5ポイント、「ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備」では、10代・20代(72.6%)が7割強と、全体(65.2%)を7.4ポイント上回っている。

(図4-4-2)

Ⅱ 調査の結果（テーマ4 ユニバーサルデザインについて）

（5）ユニバーサルデザインに配慮する上でより改善してほしい項目

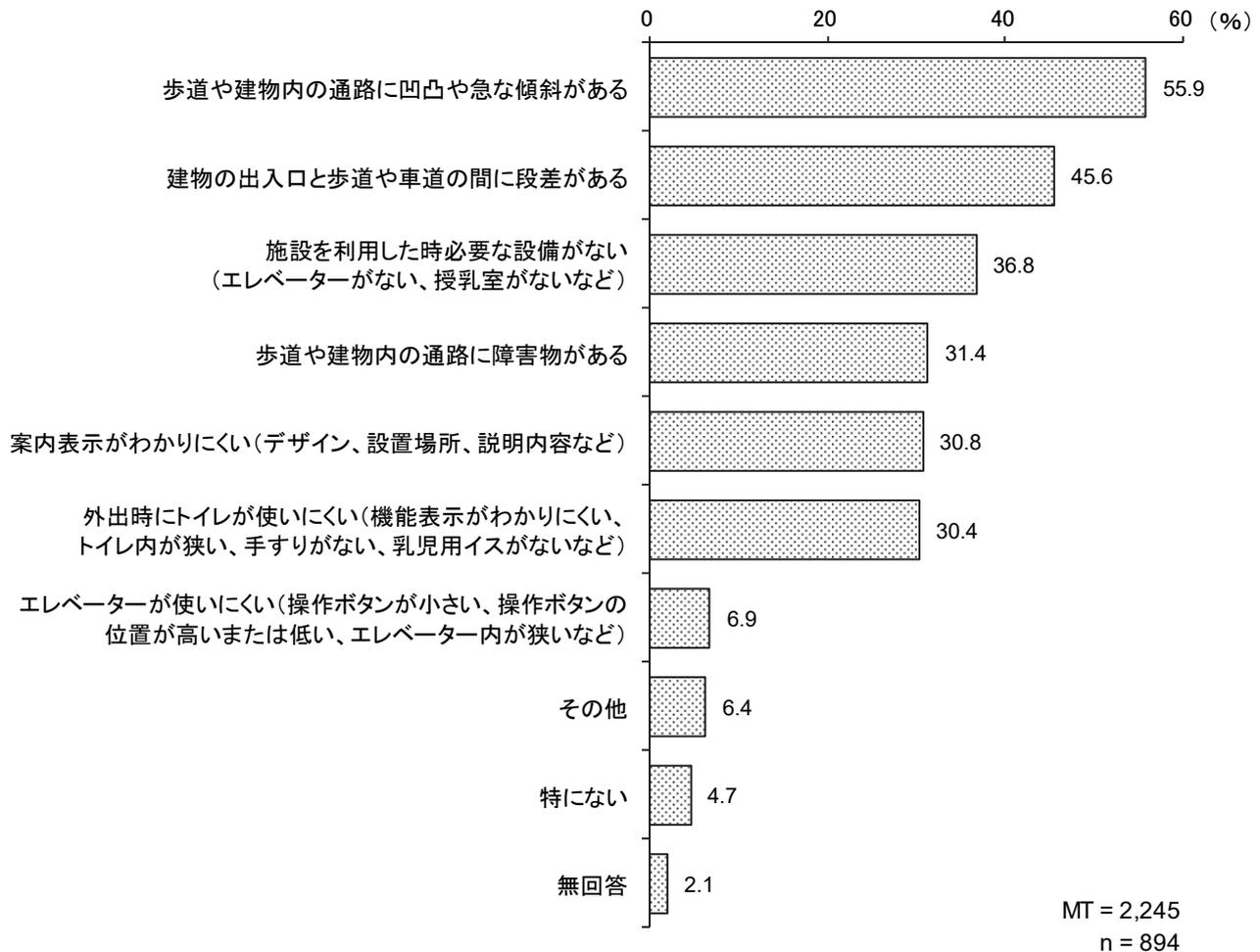
◎「歩道や建物内の通路に凹凸や急な傾斜がある」が5割台半ば

問25 ユニバーサルデザインに配慮した建築物、道路、公園、公共交通施設等を整備することによって、「移動しやすさ」、「利用しやすさ」そして「わかりやすさ」の観点から、あらゆる利用者が「使いやすさ」を実感できるまちづくりを、区は目指しています。みなさんが普段生活する中で、より改善してほしいと思う項目は何ですか。

（あてはまるものに3つまで○をつけてください）

	(n=894)
1 歩道や建物内の通路に凹凸や急な傾斜がある	55.9%
2 建物の出入口と歩道や車道の上に段差がある	45.6
3 歩道や建物内の通路に障害物がある	31.4
4 施設を利用した時必要な設備がない（エレベーターがない、授乳室がないなど）	36.8
5 外出時にトイレが使いにくい（機能表示がわかりにくい、トイレ内が狭い、手すりがない、乳児用イスがない など）	30.4
6 エレベーターが使いにくい（操作ボタンが小さい、操作ボタンの位置が高いまたは低い、エレベーター内が狭い など）	6.9
7 案内表示がわかりにくい（デザイン、設置場所、説明内容 など）	30.8
8 その他	6.4
9 特にない	4.7
無回答	2.1

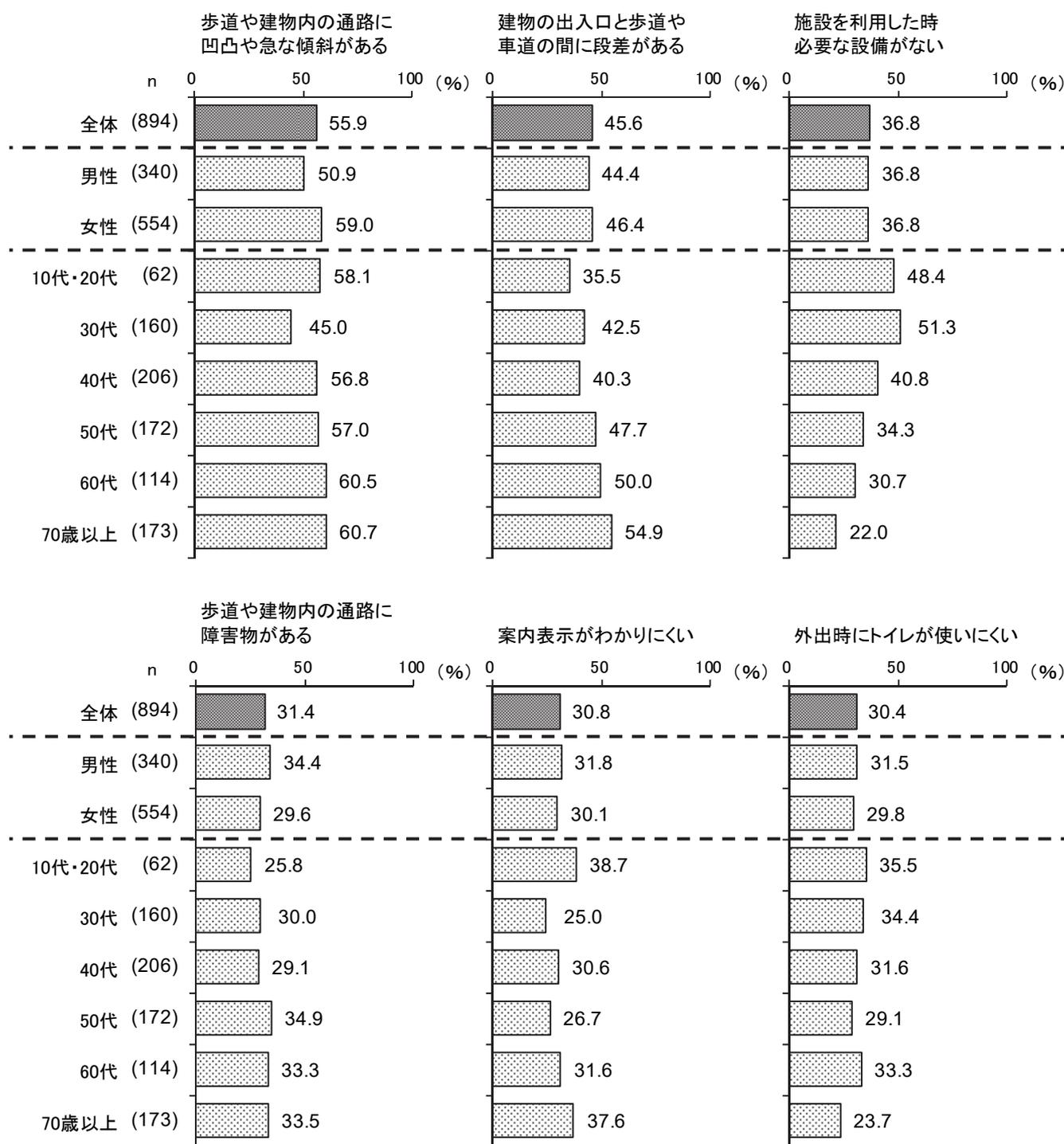
図4-5-1 ユニバーサルデザインに配慮する上でより改善してほしい項目



ユニバーサルデザインに配慮する上でより改善してほしい項目は、「歩道や建物内の通路に凹凸や急な傾斜がある」(55.9%)が5割台半ばで最も高く、次いで「建物の出入口と歩道や車道の上に段差がある」(45.6%)が4割台半ば、「施設を利用した時必要な設備がない(エレベーターがない、授乳室がないなど)」(36.8%)が3割台半ばを超え、「歩道や建物内の通路に障害物がある」(31.4%)が3割強、「案内表示がわかりにくい(デザイン、設置場所、説明内容など)」(30.8%)が約3割、「外出時にトイレが使いにくい(機能表示がわかりにくい、トイレ内が狭い、手すりがない、乳児用イスがないなど)」(30.4%)が約3割となっている。(図4-5-1)

図4-5-2 ユニバーサルデザインに配慮する上でより改善してほしい項目

（性別・年代別）上位6項目



上位6項目について、性別で見ると、「歩道や建物内の通路に凹凸や急な傾斜がある」は女性（59.0%）が6割弱と、男性（50.9%）を8.1ポイント上回っている。

年代別で見ると、「施設を利用した時必要な設備がない（エレベーターがない、授乳室がないなど）」では、30代（51.3%）が5割強と、全体（36.8%）を14.5ポイント上回っている。「建物の出入口と歩道や車道の間に段差がある」では、70歳以上（54.9%）が5割台半ば近くと、全体（45.6%）を9.3ポイント上回っている。（図4-5-2）

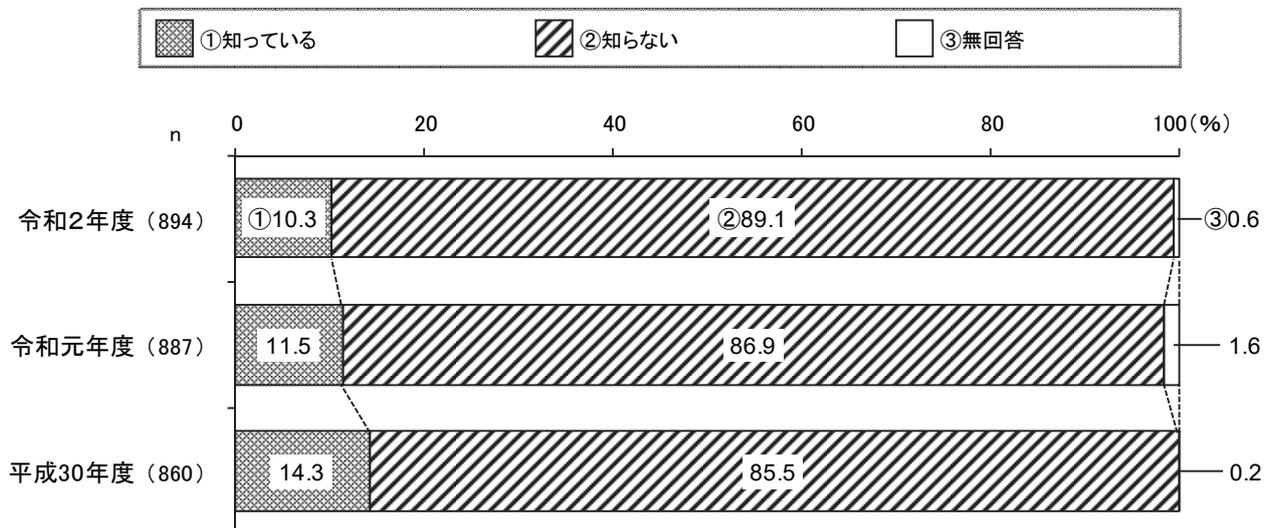
テーマ5 苦情処理機関「区民の声委員会」について

(1) 「新宿区区民の声委員会」の認知度

◎「知らない」が9割弱

問26 あなたは、苦情の申し立てをできる、相談できる制度として「新宿区区民の声委員会」が、区にあることを知っていますか。(○は1つ)		(n=894)
1	知っている	10.3%
2	知らない	89.1
	無回答	0.6

図5-1 「新宿区区民の声委員会」の認知度
(経年推移)



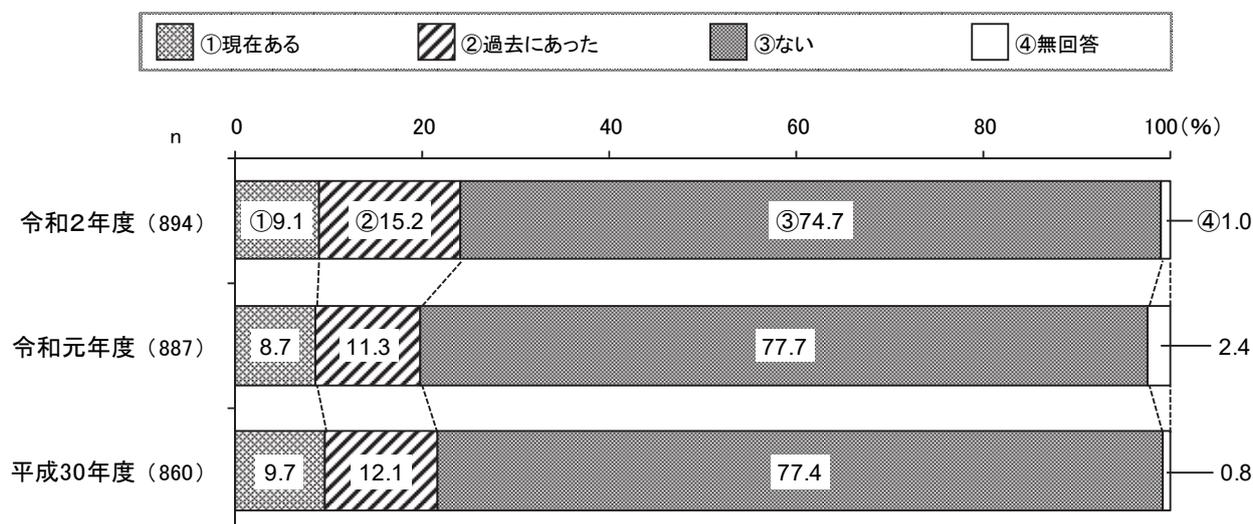
「新宿区区民の声委員会」の認知度は、「知らない」(89.1%)が9割弱となっている。
過去3年間の経年推移をみると、「知っている」(10.3%)が平成30年度(14.3%)より4.0ポイント低くなっている。(図5-1)

（2）「新宿区区民の声委員会」に相談したい案件の有無

◎新宿区区民の声委員会に相談したい案件は「ない」が7割台半ば近く

問27 あなたは、苦情処理機関「新宿区区民の声委員会」を利用したいと思うことがありますか。（○は1つ）		(n=894)
1	現在ある	9.1%
2	過去にあった	15.2
3	ない	74.7
	無回答	1.0

図5-2 「新宿区区民の声委員会」に相談したい案件の有無
（経年推移）



「新宿区区民の声委員会」に相談したい案件の有無は、「ない」（74.7%）が7割台半ば近くとなっている。一方、「過去にあった」（15.2%）が1割台半ば、「現在ある」（9.1%）が1割未満となっている。

過去3年間の経年推移をみると「過去にあった」（15.2%）が平成30年度（12.1%）より3.1ポイント高くなっている。（図5-2）

Ⅲ 資料（調査票）

令和2年度 新宿区区政モニターアンケート 第2回

- テーマ1 生涯を通じた女性の健康づくりについて
- テーマ2 健康づくりについて
- テーマ3 成年後見制度について
- テーマ4 ユニバーサルデザインについて
- テーマ5 苦情処理機関「区民の声委員会」について

テーマ1に関する資料を同封しています。ご回答の前に一読ください。

アンケートご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あてはまる番号に○印**をつけてください。設問によって、**1つだけの**場合や、**あてはまるもの全てに○印**をつけていただく場合があります。問いの最後に“(○は1つ)”などと記載してありますので、確認のうえご記入をお願いいたします。
2. **前問の回答によって、次に答える設問が変わる場合があります。**
(例：問1で、「1」に○をした方におたずねします、など)
問いの前文や、回答欄の矢印等の指示に従ってお進みください。
3. 「その他」を選んだ場合には、() 内に具体的な回答をご記入ください。

全てご記入頂けましたら、同封の返信用封筒にて

整理票を取り外さず、

令和2年11月27日（金）までにご返送ください。

※整理票は、ご協力のお礼を発送するために必要なものです。開封後直ちに調査票から切り離しますので、調査票によって個人が特定されることは一切ございません。

問合せ先 新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係
電話 03-5273-4065（直通）
FAX 03-5272-5500
E-Mail kuseijoho@city.shinjuku.lg.jp

テーマ1 生涯を通じた女性の健康づくりについて

区は、女性が生涯を通じて健康で充実した日々を過ごすために、女性の健康づくりの拠点として、四谷保健センター（四谷三栄町10番16号）内にある「女性の健康支援センター」において、女性の健康に関する知識と理解を深め、健康づくりに取り組めるよう支援しています。

※女性の健康支援センターについては、同封のリーフレットをご覧ください。



ご協力くださいますようお願いいたします。



質問内容は女性の健康づくりに関してですが、男性、女性ともにご回答ください。

問1 あなたは、四谷保健センター内にある「女性の健康支援センター」を知っていますか。

(〇は1つ)

1 知っている

2 知らない

問2 「女性の健康支援センター」で行っている女性の健康専門相談[※]について知っていますか。

(〇は1つ)

1 知っている

2 知らない

※ 女性の健康支援センターでは、産婦人科全般と更年期の専門相談を月1回ずつ実施しています。女性の産婦人科医師が一人30分程度の個別相談に応じます。新宿区在住の女性限定で、思春期から利用できます。(要予約)

問3 区では、今年の10月のピンクリボン月間にあわせ、乳がん検診の受診勧奨や乳がんの正しい知識の普及啓発など下記の取組を行いました。

あなたが知っている取組すべてに〇をつけてください。

(あてはまるものにいくつでも〇をつけてください)

- 1 図書館のレシートの裏面印刷
- 2 区有施設的女子トイレの乳がんに関する情報が印刷されたステッカー
- 3 新宿駅東口の街路灯のフラッグ
- 4 アルタビジョン（新宿駅東口前の新宿アルタビル）・ユニカビジョン（新宿駅東口前の旧ヤマダ電機LABI新宿東口館）での乳がんに関する情報の放映
- 5 どれも知らない

テーマ2 健康づくりについて

新宿区では、「新宿区健康づくり行動計画」を策定し、暮らしのなかで意識せずとも健康づくりを
実践でき、こころも身体も健康に暮らし続けられるまちをめざし、様々な取組を進めています。今
回、健康づくりへの意識をおたずねし、計画の進捗評価や今後の取組の参考にしたいと考えていま
す。

問4 あなたは、1日に必要な野菜の摂取量^{*}を知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

※1日に必要な野菜の摂取量

1日に必要な野菜の摂取量は、350gです。(直径10cmの小皿(小鉢)に5皿分)

問5 野菜料理を平均で1日何皿くらい食べていますか。(○は1つ)

(1皿の量は、約70g。直径10cmの小皿(小鉢)にきれいに入る程度です)

- | | |
|--------|--------|
| 1 食べない | 4 3皿 |
| 2 1皿 | 5 4皿 |
| 3 2皿 | 6 5皿以上 |

問6 主食^{*1}、主菜^{*2}、副菜^{*3}の3つを組み合わせる食べることが1日に2回以上あるのは
週に何日くらいですか。(○は1つ)

※1 ごはん、パン、麺類など

※2 魚、肉、卵、大豆・大豆製品などのおかず

※3 野菜、海藻、きのこなどのおかず

- | | |
|----------|----------|
| 1 週に6～7日 | 3 週に2～3日 |
| 2 週に4～5日 | 4 ほとんどない |

問7 あなたは、一日合計30分以上の運動(軽く汗をかく程度以上の運動)を1週間でどれくら
いしていますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|--------|-------------|
| 1 週2日以上 | →問7-1へ | 3 ほとんどしていない |
| 2 週2日未満 | | |

問7-1 問7で、「1」に○をした方にお伺いします。

その運動をどれくらいの期間継続していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 1年以上 | 3 1か月以上6か月未満 |
| 2 6か月以上1年未満 | 4 1か月未満 |

問8 日常生活で体を動かす*ことについておたずねします。

あなたは毎日どれくらい体を動かしていますか。(〇は1つ)

※ここでの「体を動かす」とは、普通の歩行や犬の散歩、掃除、自転車に乗る、速歩などを言います。
※「身体活動基準2013」(厚生労働省)では、健康維持・増進のためには、日常生活で毎日体を動かすような生活をするのが推奨されています。18~64歳の方は毎日60分、65歳以上の方は毎日40分は体を動かすことが、生活習慣病予防や体力維持に効果があるとされています。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 60分以上 | 4 ほとんど動くことはない |
| 2 40分以上60分未満 | 5 わからない |
| 3 20分以上40分未満 | |

問9 あなたは、ロコモティブシンドローム(運動器症候群)*という言葉やその意味を知っていましたか。(〇は1つ)

- | |
|-----------------------------|
| 1 言葉も意味も知っている |
| 2 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない |
| 3 言葉も意味も知らない(今回初めて聞いた場合を含む) |

※ロコモティブシンドローム(運動器症候群)とは

関節の痛みや筋力の低下などにより、歩く力が衰えた状態のことで、略して「ロコモ」と呼ばれています。進行すると日常生活にも支障が生じるため、いつまでも自分の足で歩き元気であるためには、運動器を長持ちさせ、ロコモを予防することが必要です。

問10 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 良い | 4 あまり良くない |
| 2 まあ良い | 5 良くない |
| 3 どちらともいえない | |

問11 あなたは週に何日くらいお酒(清酒、焼酎、洋酒など)を飲みますか。(〇は1つ)

- | | | |
|----------|--------------|----------|
| 1 毎日 | 5 月に1~3日 | → 問11-1へ |
| 2 週に5~6日 | 6 ほとんど飲まない | |
| 3 週に3~4日 | 7 やめた | |
| 4 週に1~2日 | 8 飲まない(飲めない) | |

問11-1 問11で、「1」~「6」に〇をした方にお伺いします。

お酒を飲む日は1日あたり、どれくらいの量を飲みますか。(〇は1つ)

※清酒1合(180ml)は、次の量にほぼ相当します。

ビール・発泡酒中瓶1本(約500ml)、焼酎20度(135ml)、焼酎25度(110ml)、焼酎35度(80ml)、チューハイ7度(350ml)、ウイスキーダブル1杯(60ml)、ワイン2杯(240ml)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 1合(180ml)未満 | 4 3合以上4合(720ml)未満 |
| 2 1合以上2合(360ml)未満 | 5 4合以上5合(900ml)未満 |
| 3 2合以上3合(540ml)未満 | 6 5合(900ml)以上 |

問12 あなたは、たばこを吸いますか。(〇は1つ)

- 1 毎日吸っている
- 2 時々吸う日がある
- 3 以前は吸っていたが1か月以上吸っていない
- 4 吸わない

問13 この1か月、あなたは睡眠で休養が十分とれていますか。(〇は1つ)

- 1 十分にとれている
- 2 まあまあとれている
- 3 あまりとれていない
- 4 まったくとれていない

問14 あなたは、こころの問題(ストレスや病気など)について気軽に相談できる場所・窓口※を知っていますか。(〇は1つ)

※例えば、保健センター、保健所、精神神経科の専門医、かかりつけ医、こころの電話相談などがあります。

- 1 知っている
- 2 知らない

問15 あなたには、かかりつけ歯科医※がありますか。(〇は1つ)

※かかりつけ歯科医とは、身近な診療所などで日常的に医療を受けたり、お口の健康に関する相談ができる歯科医師のことです。

- 1 ある
- 2 ない

問16 あなたは、「禁煙」「節酒」「食生活」「身体活動」「適正体重の維持」の5つの生活習慣に気をつけて生活するとがんになるリスクが大幅に低下すること※を知っていますか。(〇は1つ)

※国立がん研究センターの調査による

- 1 知っている
- 2 知らない

問19 あなたは、成年後見制度がより多くの人に利用されるために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものにもいくつか○をつけてください)

- 1 情報提供や普及啓発を充実させること
- 2 費用の負担の心配が少ないこと
- 3 プライバシー保護が徹底されていること
- 4 手続きが簡単にできるようになること
- 5 不正防止策が強化されていること
- 6 その他 ()
- 7 わからない

問20 現在、成年後見制度に関する周知方法として、知っているものは何ですか。(あてはまるものにもいくつか○をつけてください)

- 1 広報新宿
- 2 パンフレット・チラシ
- 3 新宿区社会福祉協議会広報紙「けやき」
- 4 区ホームページ
- 5 新宿区社会福祉協議会ホームページ
- 6 区ツイッター・フェイスブック
- 7 その他 ()

テーマ4 ユニバーサルデザインについて

新宿区では、だれもが移動しやすく、利用しやすく、わかりやすいまちの実現のため令和2年3月に「新宿区ユニバーサルデザインまちづくり条例」を制定し、ユニバーサルデザイン※のまちづくりを推進しています。区民が感じているユニバーサルデザインに対する課題等を把握することで、今後、ユニバーサルデザインを推進していく上での参考にしたいと考えています。

※ユニバーサルデザイン：年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人が利用できるよう生活環境その他の環境を作り上げることです。

問21 「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

- 1 言葉も意味も知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない
- 3 言葉も意味も知らない(今回初めて聞いた場合も含む)

問22 今後、ユニバーサルデザインのまちづくりを進めていくうえで、特に取り組んでほしいと思う上位3項目は何ですか。(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- 1 歩行者が、道路を安全に利用できるようになっている
- 2 駅などを、誰もが不自由なく利用できるようになっている
- 3 公園や広場など公共的空間を、誰もが不自由なく利用できるようになっている
- 4 目的地を案内するサインが充実していること
- 5 区役所や図書館などの公共建築物を、誰もが不自由なく利用できるようになっている
- 6 物販店や飲食店、病院などの民間建築物を、誰もが不自由なく利用できるようになっている
- 7 誰もが使えるトイレや休憩できる場所が充実している
- 8 点字や音声情報、拡大表示により、情報を誰もが利用できるようになっている
- 9 区役所などの窓口において、さまざまな人に配慮した対応がなされている
- 10 レクリエーションやイベントなどに、誰もが参加しやすくなっている
- 11 学校や職場で、気配りや思いやりなどの心を育む取組が行われている

問23 ユニバーサルデザインについて、あなたが重要だと思うものは何ですか。(あてはまるものに2つまで○をつけてください)

- 1 わかりやすいパンフレット類の作成、配布
- 2 講演会やセミナーの開催
- 3 学校教育・社会教育の充実
- 4 先進的取組の情報収集・紹介
- 5 さまざまな人との交流の場や機会の設置
- 6 広報紙やホームページなどによるPR
- 7 啓発グッズを使った促進
- 8 著名人を招いたシンポジウムの開催
- 9 その他 ()

問24 ユニバーサルデザインについて、あなたが区に期待することは何ですか。(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- 1 ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備
- 2 教育、人づくりなどの人材育成
- 3 民間建築物のバリアフリー化への改修支援
- 4 ユニバーサルデザインを推進していくためのルールや仕組みづくり
- 5 ホームページや各種広報媒体による情報提供の充実
- 6 アイデアコンテストの開催や活動団体の表彰
- 7 ユニバーサルデザインを取り入れた施設等の見学・体験会
- 8 地域や企業へのユニバーサルデザインアドバイザー派遣
- 9 公益的なイベントに参加できる支援 (託児サービスや手話通訳等の派遣)
- 10 その他 ()

問 2 5 ユニバーサルデザインに配慮した建築物、道路、公園、公共交通施設等を整備することによって、「移動しやすさ」、「利用しやすさ」そして「わかりやすさ」の観点から、あらゆる利用者が「使いやすさ」を実感できるまちづくりを、区は目指しています。
みなさんが普段生活する中で、より改善してほしいと思う項目は何ですか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- | | | |
|---|--|---|
| 1 | 歩道や建物内の通路に凹凸や急な傾斜がある | |
| 2 | 建物の出入口と歩道や車道の間には段差がある | |
| 3 | 歩道や建物内の通路に障害物がある | |
| 4 | 施設を利用した時必要な設備がない（エレベーターがない、授乳室がない など） | |
| 5 | 外出時にトイレが使いにくい（機能表示がわかりにくい、トイレ内が狭い、手すりがない、乳児用イスがない など） | |
| 6 | エレベーターが使いにくい（操作ボタンが小さい、操作ボタンの位置が高いまたは低い、エレベーター内が狭い など） | |
| 7 | 案内表示がわかりにくい（デザイン、設置場所、説明内容 など） | |
| 8 | その他（ | ） |
| 9 | 特になし | |

テーマ5 苦情処理機関「区民の声委員会」について

区は、区政に関する苦情を公正・中立な立場で処理する第三者的な機関である区民の声委員会を設置しています。区民の声委員会とは、区民の方などから寄せられた区政に関する苦情を3人の委員が第三者的な立場から公正・中立に処理する機関です。例えば「受けられるはずのサービスが受けられなかった」「区には直接言いたくない」等のことについてご相談いただけます。

中立性やプライバシーの保護には特に配慮していますので、安心してご利用ください。

問 2 6 あなたは、苦情の申し立てをできる、相談できる制度として「新宿区区民の声委員会」が、区にあることを知っていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-------|---|------|
| 1 | 知っている | 2 | 知らない |
|---|-------|---|------|

問 2 7 あなたは、苦情処理機関「新宿区区民の声委員会」を利用したいと思うことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|---|--------|
| 1 | 現在ある |
| 2 | 過去にあった |
| 3 | ない |

—— 引き続き、回答者の属性のご記入をお願いします ——

—— 引き続き、回答者の属性のご記入をお願いします ——

※調査結果を統計処理する際に必要ですので、以下の回答者の属性をご記入ください。

※調査票についている「整理票」は、ご協力のお礼をお送りするために必要ですので、取り外さずにそのままご返送ください。区に到着後、整理票は調査票から取り外して保管しますので、調査票から個人が特定されることはございません。

回答者の属性

問ア あなたのお住まいの地域（所管する特別出張所の地域）をお選びください。（〇は1つ）

- | | |
|-------|-----------|
| 1 四谷 | 6 戸塚 |
| 2 簗笥町 | 7 落合第一 |
| 3 榎町 | 8 落合第二 |
| 4 若松町 | 9 柏木 |
| 5 大久保 | 10 角筈・区役所 |

問イ 性別をお答えください。（〇は1つ）

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問ウ あなたの年齢（満年齢）を、次の中からお選びください。（〇は1つ）

- | | |
|----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 8 50～54歳 |
| 2 20～24歳 | 9 55～59歳 |
| 3 25～29歳 | 10 60～64歳 |
| 4 30～34歳 | 11 65～69歳 |
| 5 35～39歳 | 12 70～74歳 |
| 6 40～44歳 | 13 75～79歳 |
| 7 45～49歳 | 14 80歳以上 |

問カ あなたは新宿区に住んで何年になりますか。(〇は1つ)

1 1年未満	5 10年以上20年未満
2 1年以上3年未満	6 20年以上30年未満
3 3年以上5年未満	7 30年以上
4 5年以上10年未満	

問キ 現在のあなたの住宅の形態は、次のうちどれですか。(〇は1つ)

一戸建て	集合住宅
1 持ち家の一戸建て	5 分譲マンション・アパート (自己所有のものを含む)
2 賃貸の一戸建て	6 賃貸マンション・アパート
3 社宅・公務員官舎の一戸建て	7 賃貸のUR都市機構(旧公団) ・公社のマンション・アパート
4 その他 ()	8 賃貸の都営・区営住宅
	9 社宅・公務員官舎
	10 その他 ()

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数をおかけしますが、同封の返信用封筒にて、

整理票を取り外さず、

11月27日(金)までに、ご返送ください。

(返送・問合せ先)

〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1

新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係

電話 03-5273-4065 (直通)

FAX 03-5272-5500

E-mail kuseijoho@city.shinjuku.lg.jp

令和2年度第2回新宿区区政モニターアンケート

令和3年2月発行

編集・発行

新宿区総合政策部区政情報課広聴係

東京都新宿区歌舞伎町1-4-1

電話(03)5273-4065(直通)

印刷物作成番号

2020-36-2106

この印刷物は、業者委託により400部印刷製本しています。その経費として、1部あたり660円(税込み)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。

新宿区は、環境への負荷を少なくし、未来の環境を創造するまちづくりを推進しています。
本誌は森林資源の保護とリサイクルの促進のため、古紙を利用した再生紙を使用しています。